

# Network Storage System

LAS-1URAシリーズ

ネットワーク・ストレージ・システム

ソフトウェア マニュアル

**Logitec**

# 目次

第 1 章	LAS-1URAシリーズ .....	1
	特徴 .....	1
	LogitecNAS の各部 .....	2
	LAN-1URA Series Utility Disc .....	2
	LogitecNAS ユーザーガイド .....	4
第 2 章	NAS サーバのセットアップ .....	4
	はじめる前に .....	4
	セットアップ .....	5
第 3 章	高速環境設定 .....	7
	システム管理者のパスワード .....	7
	サーバの環境設定 .....	8
	サーバの基本設定 .....	8
	システムの日付と時刻の入力 .....	10
	言語の選択 .....	10
	通知あて先の入力 .....	11
	高速環境設定を完了する .....	11
第 4 章	ストレージマネージャの使い方 .....	12
	サーバ情報 .....	12
	サーバの環境設定 .....	14
	セキュリティ設定 .....	14
	共有フォルダ設定 .....	15
	アカウント設定 .....	24
	グループ設定 .....	30
	ネットワーク設定 .....	35
	Windowsドメイン/ワークグループ設定 .....	36
	UNIX NIS ドメイン設定 .....	39
	Apple Network .....	40
	Novell Network .....	41
	ツールキット .....	42
	LED管理 .....	42
	RAID管理 .....	43
	SNMP環境設定 .....	46
	UPS管理 .....	47
	デフォルトを復元 .....	48
	シャットダウン/再起動 .....	48
	システム更新 .....	49
	ログアウト .....	49

第 5 章	サーバに保存されているデータのバックアップと復元	52
	データのバックアップ	52
	サーバにデータを復元する	53
第 6 章	トラブルシュート	56
付録 1	RAID とは	63
	RAID 0(ストライピング)	64
	RAID 5	64
	ホットスペア搭載 RAID 5	64
付録 2	Windows から NAS サーバへのアクセス	65
付録 3	UNIX から NAS サーバへのアクセス	66
付録 4	Apple から NAS サーバへのアクセス	69
付録 5	電子メール通知一覧表	70
付録 6	システムのデフォルト環境設定	77

## 登録商標・著作権

- Microsoft, MS-DOS, Windows, Windows NT は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- UNIX は, The Open Group がライセンスする米国ならびに他の国における登録商標です。
- Linux は, Linus Torvalds の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Mac は、米国およびその他の国で登録された Apple Computer, Inc. の商標です。
- NetWare は, 米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。
- その他、本マニュアルに記載されている製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

Copyright (c) 2001 Logitech Corporation

Copyright (c) 2000-2001 Synology Inc.

LAN-1URA シリーズは、効率的で安定したデータ記憶を使いやすいインターフェイスで可能にするアプライアンスサーバです。

## 特徴

<b>サポートするプロトコルと動作確認済みクライアント</b>
Microsoft ネットワーク/CIFS、SMB TCP/IP Windows Me、98、2000 NT4.0
UNIX NFS v2.0、v3.0 TCP/IP Linux
Apple Macintosh Network AFP AppleTalk TCP/IP Apple Macintosh 9.x、OS X
<b>統合可能なドメイン</b>
Microsoft NT 4.0/2000 ドメイン
NIS ドメイン
<b>ソフトウェアRAID</b>
Non-RAID
RAID 0
RAID 5(出荷時)
ホットスベア搭載RAID 5
<b>可用性性/信頼性</b>
ハードディスクホットスワッピング、オンラインリビルド
ハードウェア(温度、ECC、HDD・監視、自動通知、自動ログ)
外部APC UPS 対応(シリアルポート使用)
任意ドライブブート(RAID 5)
<b>管理容易性</b>
ウェブ対応管理(ストレージマネージャ) - Microsoft IE 4.0 以降
SNMP MIB
Windows 対応バックアップ/復元ユーティリティ
<b>その他の特長</b>
Windows 対応Logitec NAS Assistant - Microsoft Windows Me/98/2000/NT4.0 版
2バイトファイル/フォルダ名対応
RAID 管理
デフォルト設定復元

# Logitec NAS の各部

## LAN-1URA Series Utility Disc

この CD-ROM には以下のファイルが含まれます。

CDドライブ:	
— ¥Setup.exe	LAN-1URAシリーズ専用管理ツールセットアップ
— ¥MANUAL	
ソフトウェアマニュアル.pdf	LAN-1URAシリーズ ソフトウェアマニュアル(本書)
— ¥ACROBAT	
AR405JPN.exe	PDFファイル閲覧用ツール(AcrobatReader4.05)
— ¥README.txt	このCD の説明ファイル

CD-ROM 内に保管されている Setup.exe を実行すると **Logitec NAS Assistant** と **Logitec NAS Backup** の 2 つのファイルが作成されます

### ⚠注意

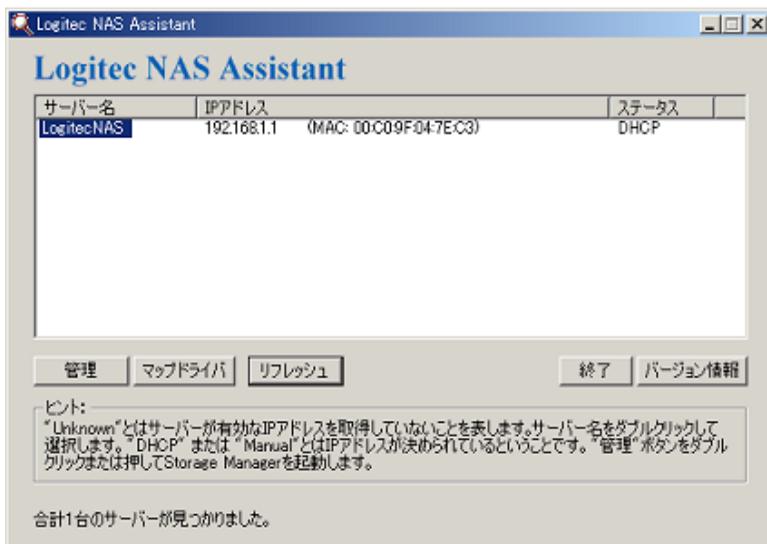
**Logitec NAS Assistant** は、システム管理者および LAN 上の Windows クライアントターミナルから使用できます。

**Logitec NAS Backup** はシステム管理者だけが使用できます。

## Logitec NAS Assistant

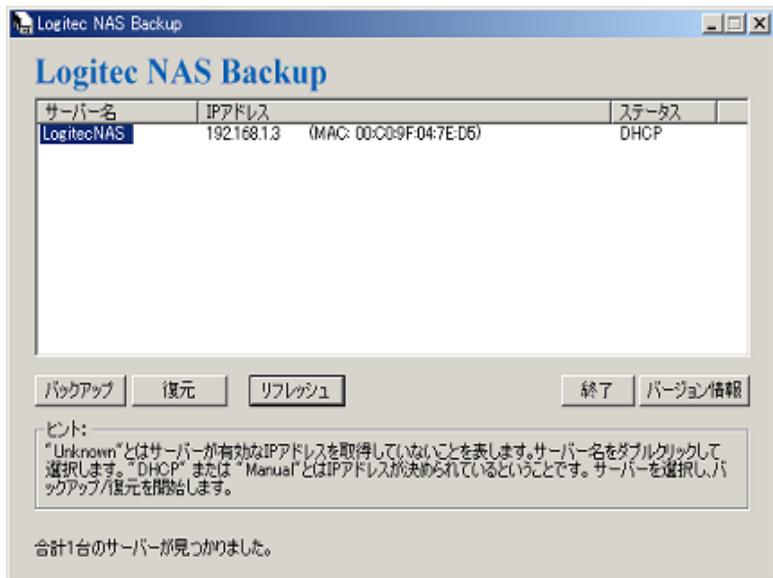
**Logitec NAS Assistant** は、システム管理者が IP アドレスの検索と設定のために使用します。

LAN 上の Windows クライアントのデスクトップにインストールすることもできるため、NAS サーバに手軽にログインして個人情報を変更することができます。また、NAS サーバに保存されている、アクセス権限で管理されたすべての共有フォルダをネットワークドライブとして接続することができます。



## Logitec NAS Backup

Windows 対応のバックアッププログラムです。システム管理者が使用し、NAS サーバから LAN 上の他のハードディスクへデータをバックアップできます。また、データを NAS サーバへ復元することもできます。



## 第 2 章 NAS サーバのセットアップ

本機に電源と LAN ケーブルを接続したら電源を入れ Logitech NAS Assistant で NAS サーバを検索し、IP アドレスを設定します。

### ！ヒント

#### NAS サーバのセットアップ手順

1. NAS サーバを LAN と電源に接続し、電源を入れます。
2. LAN 上の Windows クライアントから Logitech NAS Assistant を実行し、NAS サーバの IP アドレスを検索し、設定します。自動的にブラウザのウィンドウが開き NAS サーバの設定画面(以下、ストレージマネージャ)に接続します。  
(詳細は、次の章以降を参照願います)。
3. ストレージマネージャの「高速環境設定」でサーバの基本オプションを設定します(第 3 章参照)。
4. ストレージマネージャでサーバの詳細設定を行います。  
ここでは、システム構成、ユーザー権限、ネットワーク、ハードディスクなどを設定します。  
(詳細は、第 4 章を参照願います。)

### はじめる前に

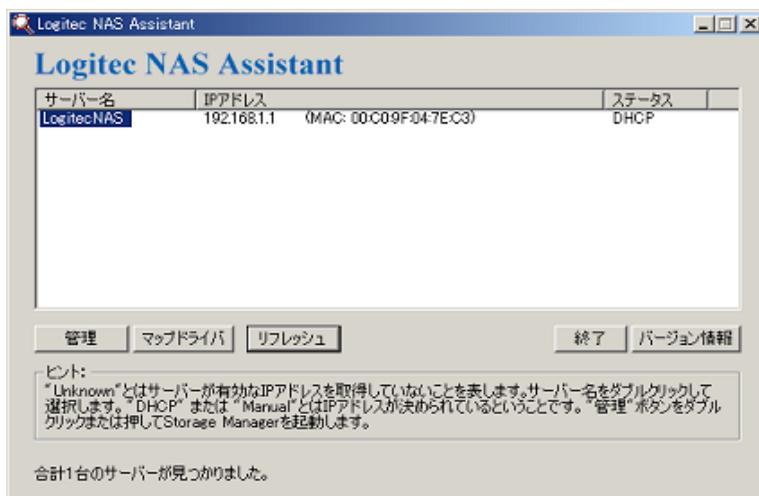
1. NAS サーバが LAN に正しく接続され、電源が入っていることを確認します。  
共有資源を公開する LAN はプライマリ LAN ポートに接続してください。  
セカンダリ LAN ポートはバックアップ / リストア専用です。
2. NAS サーバの設定に使用したクライアントターミナルに Microsoft Internet Explorer 4.0 以降がインストールされていることを確認します。  
また、デフォルトのブラウザが Microsoft Internet Explorer 4.0 以降になっている必要がありますので、あわせて確認してください。
3. クライアントターミナルの画面を 800 × 600 以上に設定します。

## セットアップ

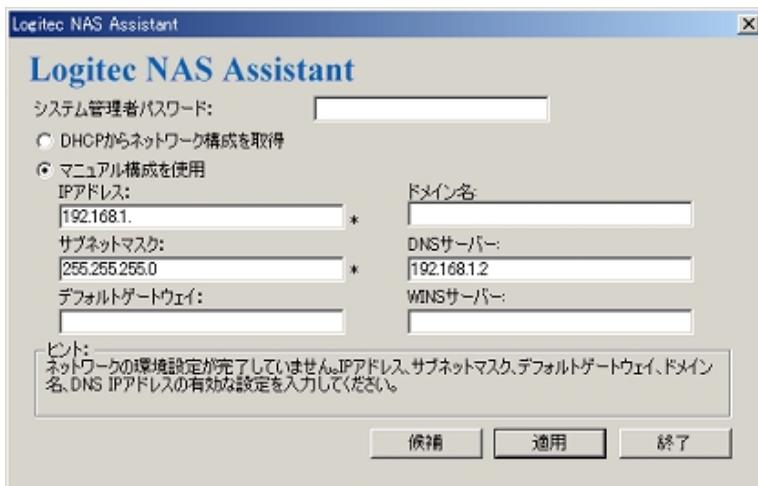
1. Microsoft Windows Me/98/2000/NT4.0上でネットワーク接続を選び、ブラウザのバージョン Microsoft Internet Explorer4.0以上がインストールされているコンピュータを選びます。
2. LAS-1URA Series Utility Disc をCD-ROM ドライブに入れ、CD-ROM内のSetup.exe を実行し管理ツールのインストールを行ってください。
3. [スタート]-[プログラム]-[Logi tec]-[LAS-1URAシリーズ ユティリティ]-[LAS-1URAアシスタント]をクリックし、管理ツールを立ち上げるとLAN上で動作しているLAS-1URA シリーズがすべて検索され、一覧表示されます。  
ここでは、Logi tecNAS というサーバをはじめにセットアップすることになります。デフォルトでは、ネットワークの環境設定情報を DHCP サーバから得ます。LAN 上に DHCP サーバが存在する場合は、「ステータス」に DHCP と表示されます。存在しないときは、ステータスに「不明」(Unknown)と表示されます。

### 注意

デフォルトのサーバ名は Logi tecNAS です



4. サーバ名 Logi tecNAS をダブルクリックしてネットワークの環境設定画面を表示させます。
5. LAN 上に DHCP サーバが存在する場合は、「DHCP からネットワーク設定を取得」を選択します。DHCP からネットワークが自動的に設定されます。DHCP サーバが存在しないか、または手動で環境設定したい場合は、「手動設定を使用」を選び、IP アドレス、ドメイン名、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS、WINS サーバを入力します。クライアントのネットワーク設定が取得され、画面に表示されます。表示された情報では足りない場合は、「候補」を選びます。LAN 上に存在する利用可能な IP を調べ、IP アドレスの候補として表示されます。



6. 「システム管理者のパスワード」にパスワードを入力します。
7. 「適用」をクリックして確定します。ブラウザが自動的に立ち上がり、サーバの IP アドレスに接続します。  
ストレージマネージャの「高速環境設定」を開始してください。  
(詳細は、第 3 章を参照願います)

検索または環境設定が失敗した場合は、以下を確認してから再度試みてください。

1. 正しいサーバを選択したかどうか。
2. LAN ケーブルがプライマリ LAN ポートに接続しているかどうか。
3. 本機が電源に接続され、電源が入っているかどうか。
4. LAN の IP アドレスに空きがあるかどうか。
5. 手動入力したネットワーク設定に間違いがないかどうか。
6. Microsoft Internet Explorer 4.0 以上をデフォルトのブラウザとして使用しているかどうか。
7. 使用しているクライアントとセットアップするNASサーバが同じサブネット上に存在しているかどうか。

## 第3章 高速環境設定

LogitecNASでは、NASの管理にストレージマネージャというプログラムを使用します。このプログラムでサーバ、システム、ネットワークの各パラメータを設定します。設定は、Windows、UNIX、Apple Macintosh のネットワークをはじめとして、ハードディスクの環境設定も行えます。

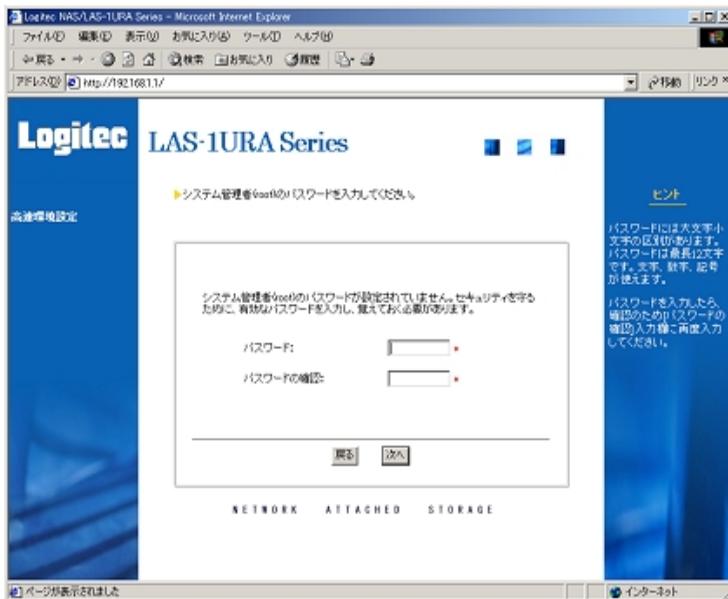
NASサーバをはじめてインストールする場合、Logitec NAS AssistantでサーバのIP設定をすべて終了すると、自動的にブラウザのウィンドウを開いてそのサーバに接続します。

「高速環境設定」ページに基本設定オプションが現れます。

！ヒント

1. セットアップ中にブラウザのウィンドウ右側にヒントが表示されます。  
(詳しい解説はこのユーザーガイドをご覧ください。)
2. 本製品はMicrosoft Internet Explorer 4.0 以上のブラウザのみに対応しています。  
Netscape には対応していません。

## システム管理者のパスワード



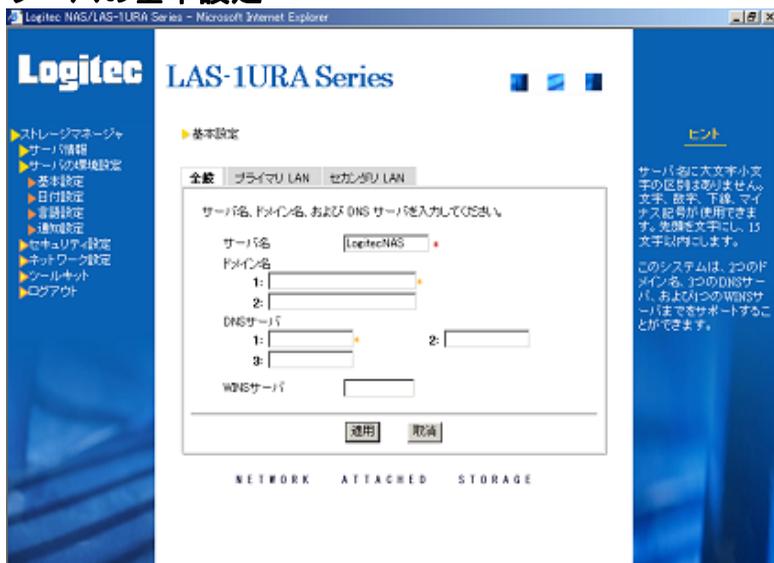
本製品を使用されるのが今回が初めての場合、システム管理者 (root) のパスワードを設定するように求められます。

パスワードには大文字小文字の区別があります。

パスワードは最長12文字です。英字、数字、記号が使えます。パスワードを入力したら確認のため「パスワードの確認」入力欄に再度入力してください。

# サーバの環境設定

## サーバの基本設定

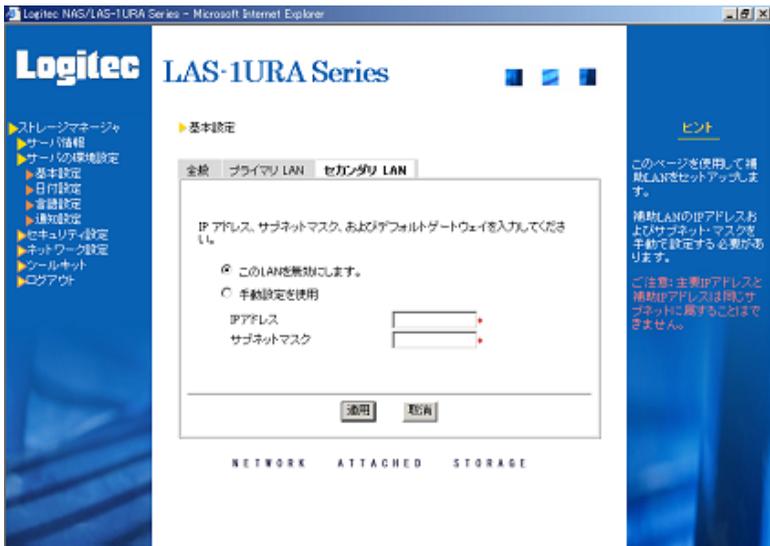


最初に設定済みのサーバ名を変更できます。サーバ名は一意的な名前である必要があります。ネットワーク上に他に同じ名前のサーバがあってははいけません。サーバ名には大文字小文字の区別がありません。サーバ名は最長15文字です。先頭が英字である必要があります。その後は英字、数字、下線、またはマイナス記号にします。



ここで、サーバにプライマリ LAN ポートの IP アドレスを設定する方法を選択します。すでに選択してあった場合はその結果が表示されます。表示された設定どおりにするかどうかを決めます。

LAN 上に DHCP サーバが存在する場合は、「DHCP からネットワーク設定を取得」をクリックします。存在しない場合は「手動設定を使用」を選びます。赤色の星印が付いた列は必須項目です。橙色の星印が付いた列は推奨項目です。



次に、サーバにセカンダリ LAN ポートの IP アドレスを設定するかどうかを選択します。すでに選択してあった場合はその結果が表示されます。表示された設定どおりにするかどうかを決めます。セカンダリ LAN ポートの IP アドレスは DHCP でアドレス取得をすることはできません。使用する場合は IP アドレスを直接指定してください。

セカンダリ LAN ポートはバックアップ / リストア専用ポートです。

これにつながった LAN から一般ユーザーが、NAS サーバ上のファイルを共有しないでください。

また、セカンダリ LAN ポートではストレージマネージャを使って NAS にアクセスすることはできません。

#### ！ヒント

ネットワークの環境設定に間違いがあり、Logitec NAS Assistant でサーバを見つけれない場合は、サーバ後部にある "IP リセットボタン" (IP reset button) を押してネットワークの環境設定をリセットします。

## システムの日付と時刻の入力

システムの日付と時刻を24時間形式で入力します。標準時間帯も入力してください。

## 言語の選択

ストレージマネージャとWindowsクライアントターミナルのコードページに表示する言語を選びます。「高速環境設定」が完了すると、その言語で表示されます。Windows クライアントのコードページ(言語)がわからない場合は、"chcp" コマンドをコマンドプロンプトに入力し、リターンキーを押します。コードページ情報が表示されます。

### 注意

コードページの設定に間違いがあると、データアクセス中にエラーが発生することがあります。どのターミナルでも同じコードページを使用する必要があります。

### ! ヒント

Windows クライアントに英語などの1バイト言語(コードページ)を設定すると、NAS サーバに2バイトでファイルやフォルダの名前を保存するときにエラーが起きます。また、保存後に検出できなくなることもあります。その場合は、「サーバの環境設定」「言語設定」でコードページを2バイトコードに変更します。このようにしないとファイルに正しくアクセスしたり削除できません。

## 通知あて先の入力

LogitechNAS は重要なイベントを電子メールで知らせます。「SMTP サーバ」と「電子メールのプライマリアドレス」を入力します。重要なイベントが起きると、電子メールで通知が届き、直ちに対応できるため、システムを危険な状態から守ることができます。「セットアップが終了したらテストメッセージを送る」を選んで、環境設定を正しく入力したことを確認することができます。

例: `root@abc.com` をお使いの場合、そのアドレスのプロバイダに属する SMTP サーバを選択し、`mail.abc.com` のように入力します。

### 注意

IP アドレスでなく SMTP サーバのホスト名(例: `mail.abc.com`)を入力する場合は DNS サーバアドレスも入力してください。

## 高速環境設定を完了する

「終了」をクリックして設定を適用します。ストレージマネージャを起動します。「高速環境設定」完了後に修正したい項目がある場合は「サーバの環境設定」オプションを使用します。(詳細は、第 4 章を参照願います。)

## 第4章 ストレージマネージャの使い方

「高速環境設定」が完了すると、ブラウザ対応のストレージマネージャが起動します。

NAS サーバの設定を編集することができます。

### ！ヒント

ストレージマネージャには「戻る」オプションが用意されていませんが、すべての設定可能項目がブラウザのウィンドウ左側に一覧表示されます。

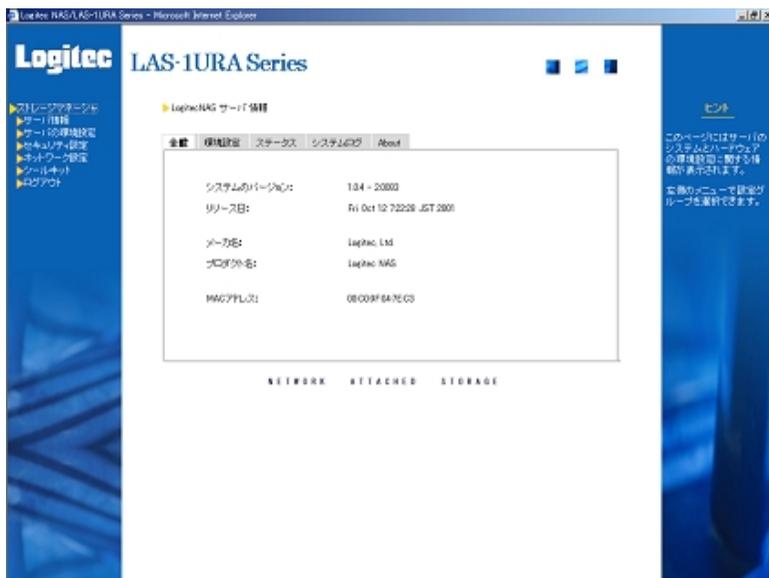
1つの画面が終わったら、その次に設定したい項目をそのまま左側の一覧から選択します。

15分間何も入力しないと、自動的にストレージマネージャからログアウトしますので作業を続けるには再度ログインする必要があります。

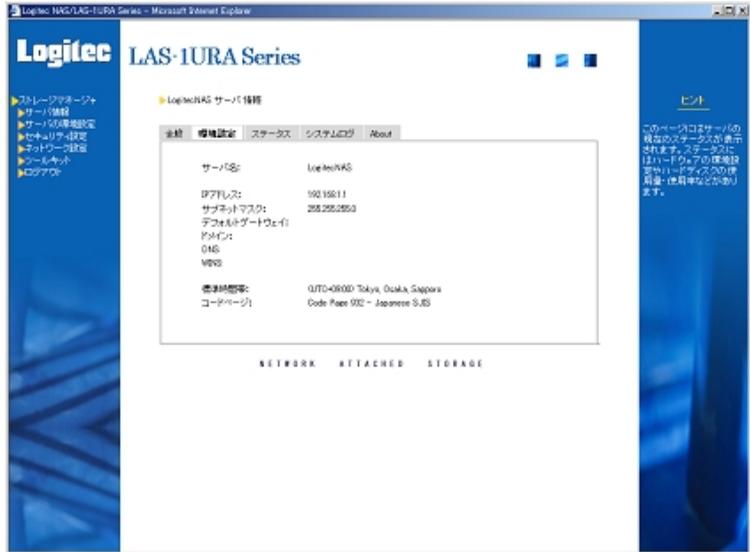
## サーバ情報

ここにはサーバに関する情報が表示されます。

- ・ **全般**：システムのバージョンと MAC アドレス



- ・**環境設定**：このページにはサーバの現在の環境設定が表示されます。設定は「サーバの環境設定」で変更できます。



- ・**ステータス**

このページにはサーバの現在のステータスが表示されます。ステータスにはECCメモリ、温度、ハードディスクの使用率統計があります。メモリエラー、温度上昇、ハードディスク障害などのエラーが発生した場合、このページは直ちに更新され、電子メールでメッセージが通知されます。



#### ・システムログ

システムログ、ストレージマネージャログ、WindowsとNFSクライアントの接続状況が表示されます。

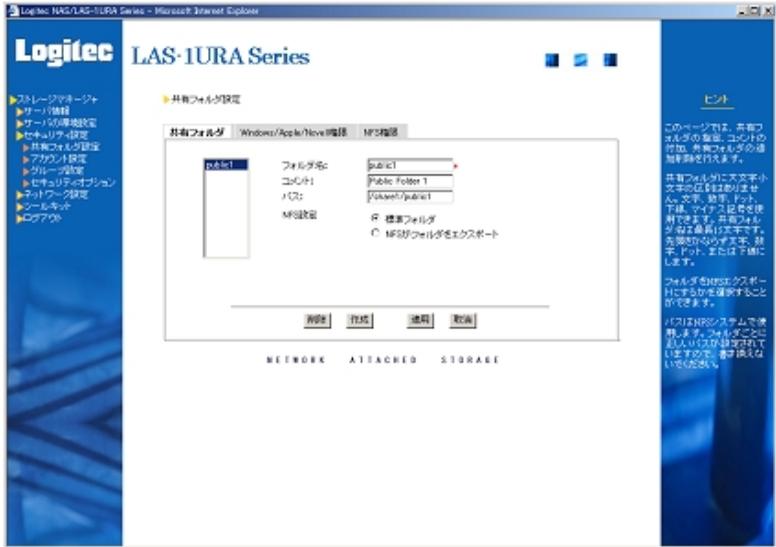
## サーバの環境設定

「サーバの環境設定」では、サーバの名前とIPアドレスを選び、イベント通知サービスの日付、言語、電子メールアドレスを設定できます。第3章「高速環境設定」に解説があります。

## セキュリティ設定

ここでは、NASサーバに保存されているファイルとフォルダにアクセスできるユーザーとユーザーグループを設定します。

## 共有フォルダ設定 共有フォルダ



このオプションは共有フォルダの追加、修正、削除に使用します。フォルダ名には大文字小文字の区別がありません。最長15文字です。英字、数字、ドット、下線、マイナス記号が使えます。先頭はマイナス記号にできません。フォルダのエクスポートをNFSからのみ行えるようにして、UNIXでのみ利用できるようにすることもできます。共有フォルダは、ユーザーグループアカウントのホームフォルダを別にして64個まで作成できます。

## デフォルト共有フォルダ

LogitecNASでは、ボリュームごとに「publicn」という共有フォルダがインストールされます。

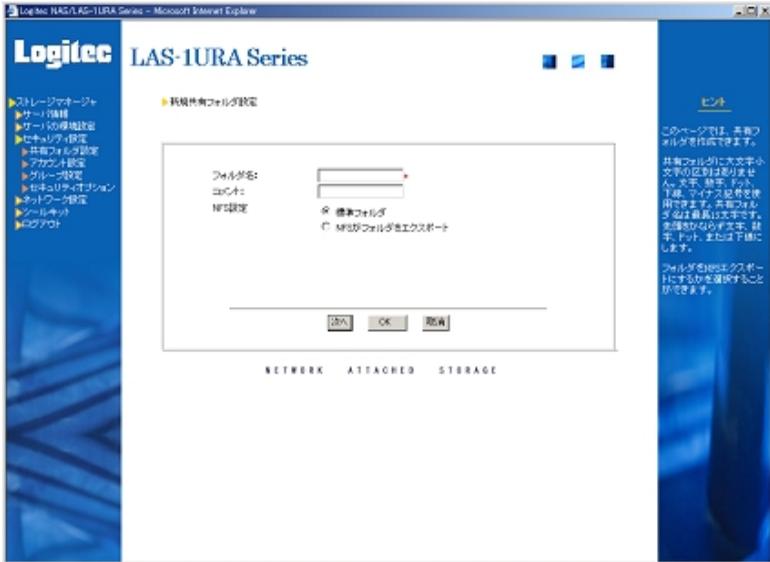
nはディスクのボリュームを表します。たとえば、ハードディスク4台構成でRAID以外の環境設定がされている場合は、それぞれpublic1、public2、public3、public4という名前になります。一方ハードディスク4台のRAID5構成では、単一ボリューム扱いとなり、public1というフォルダが1つだけ作成されます。作成されたフォルダの名前、説明、パス(/sharen/publicn)は変更できません。

このパブリックフォルダには、NASサーバにログインしたユーザーが読み取り書き込みアクセス権を持ちます。

## 共有フォルダの修正

左側には既存の共有フォルダが表示されます。フォルダ名をクリックするとそのフォルダに関する情報が右側の区画に表示されます。フォルダの名前を変えたり、説明を修正したりしたいときは、右側で変更を行い、「適用」をクリックします。

## 共有フォルダの追加



フォルダを追加するには、「作成」をクリックし「新規共有フォルダ設定」画面を開きます。はじめにフォルダの名前と説明を入力します。複数のボリュームを使用する場合は、「フォルダの保存場所」で「volume」を選択します。標準ユーザー（Windows, Apple）とNFSユーザー間でフォルダを共有する場合は、「標準フォルダ」を選択します。NFSユーザーだけに使用させる場合は、「NFSがフォルダをエクスポート」を選択します。「OK」をクリックして終了するか、または「次へ」で別のフォルダを追加します。

### ！ヒント

Windows 98上のクライアントではフォルダ名は最大13文字が表示されます。

Windows NTでは最大12文字のみ表示されます。したがって、Windows 98/NT上のクライアントとフォルダを共有する場合はフォルダ名の長さに注意が必要です。

そうしないと、ネットワーク上のクライアントからフォルダにアクセスできなくなります。

## 共有フォルダの削除

共有フォルダを削除するには、左区画の一覧表示から削除したいフォルダを選択し(複数選択はCtrl、連続選択はシフトキーを使用)、「削除」をクリックします。デフォルトのフォルダ「public」は削除できません。

## 共有フォルダのパス

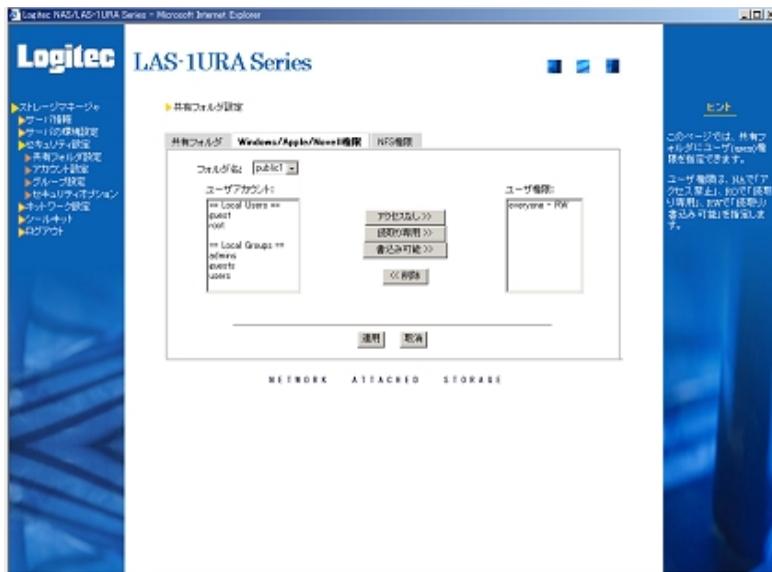
「パス」オプションはNFSでのみ使用できます。手動で編集することはできません。NASサーバ上で共有フォルダを作成すると、/sharen/Shared\_Folder\_Name というパスが自動的に入力されます。

たとえば、NAS サーバの最初の「volume」に「test」という共有フォルダを作成すると、/share1/testというパスが自動的に入力されます。このデフォルト値を変更することはできません。

共有フォルダを作成したら、「Windows/Mac ユーザー権限」または「NFS 権限」タブでユーザーとそのアクセス権限を選んでください。

共有フォルダに保存したファイルはどれも同じアクセス権限になります。

## Windows/Apple ユーザー権限



この設定では、ローカルユーザー / グループ (NAS サーバにアカウントを持つ Windows/Apple クライアント) と Windows ドメインユーザー / グループのアクセス権限を設定することができます。「フォルダ名」に一覧表示されたフォルダをマウスで選びます。

選択されたフォルダのアクセス権限を持つすべてのユーザーまたはグループが「ユーザー権限」列に表示されます。

## ユーザー権限の修正

既存のユーザー権限を変更するには(例:「書き込み可能」「読取り専用」)、変更したいユーザー権限を持つユーザーを「ユーザー権限」列から選びます。

中央の列から「読取り専用」を選択し、「適用」をクリックして選択を確認します。

## ユーザー権限の追加

ユーザーまたはグループのアクセス権限を追加するには、「ユーザーアカウント」列のユーザーをマウスで選択し(複数選択はCtrl、連続選択はシフトキーを使用)、「アクセス禁止(NA)」、「読取り専用(RO)」、または「書き込み可能(RW)」をクリックします。

## ユーザー権限の削除

ユーザーまたはグループのアクセス権限を削除するには、「ユーザー権限」列のユーザーをマウスで選択し(複数選択はCtrl、連続選択はシフトキーを使用)、「削除」をクリックします。

### ！ヒント

1. 共有フォルダにWindows/Appleのユーザー権限を設定するときは、矛盾が起きないように気をつけてください。  
矛盾を避けるには、rootに「読取り専用」を設定し、adminsに「書込み可能」を設定するようなことがないようにします。
2. 矛盾が起きたら、それまでより高いアクセス権限を使用してください。  
root(adminsグループに帰属)に「読取り専用」を設定し、adminsグループに「書込み可能」を設定すると、rootを含むグループ全体のアクセス権限が「書込み可能」に設定されます。  
everyone(全員)のアクセス権限を「書込み可能」に設定し、rootを「読取り専用」に設定すると、「適用」をクリックした時点で全員(everyone)に「書込み」権限が設定されます。
3. LogitecNASはWindows 2000/NT4.0 ACL(Access Control List)に対応していません。したがって、ファイル上で右マウスボタンをクリックしてアクセス権限を設定することはできません。ストレージマネージャの「セキュリティ設定」-「共有フォルダ設定」ページですべての共有フォルダのアクセス権限を設定することができます。

## NFS ユーザー権限



このオプションは、NFS (Linux等のPC-UNIX OS)で共有フォルダのアクセス権限を設定するのに使用します。

「共有フォルダ設定」 - 「NFS 権限」 ページに入力し、「フォルダ名」列から設定したい共有フォルダを選択します。「NFSクライアントのアクセス権限」にホストとサブネットまたはネットグループが表示されます。アクセス権限と許可した権限も表示されます。

NFSクライアントのアクセス権限は以下の3つに分けて表示されます。

### 1. ホスト名

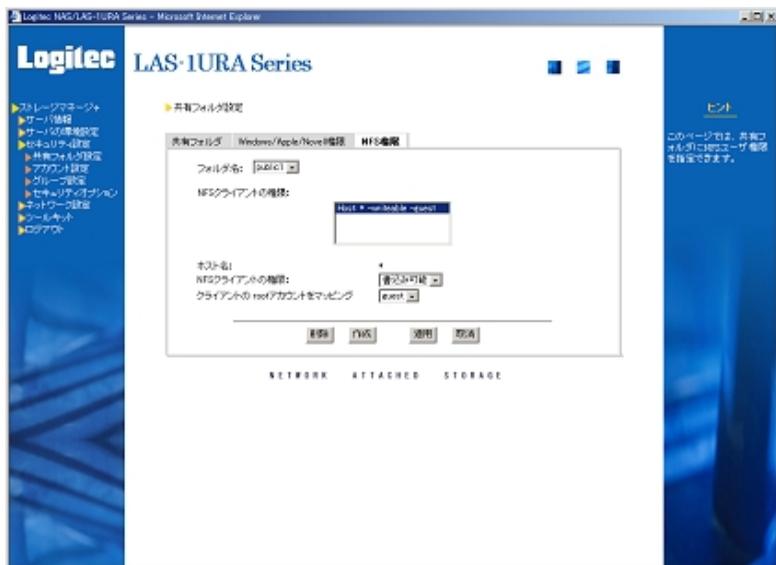
共有するフォルダ名が表示されます。ホスト、サブネット、ネットグループのどれかを設定することができます。「ホスト\*」(Host)が表示されるのはそのフォルダがすべてのホストによって共有されていることを表します。

### 2. NFSクライアント

共有モードが表示されます。「読み取り専用」や「書込み可能」の設定が可能です。

### 3. クライアントの root アカウントをマッピング

ローカルユーザーの名前が表示されます。NFSクライアントのシステム管理者はこのアカウントのフォルダにのみアクセスできます。



**!** 注意

Windows と PC-UNIX(NFS)で同一の資源を共有する場合は、フォルダ名、ファイル名に英数字をご使用ください。

## NFS ユーザー権限の追加



NFS ユーザー権限の設定を追加するには、「作成」をクリックします。次に「ホスト名」、「サブネット」(形式: サブネット / サブネットマスク、例: 192.168.1.0/255.255.255.0)、または「ネットグループ」(NASサーバをNISドメインに加える場合)に入力します。「クライアントの root アカウントをマッピング」列でローカルユーザーを選び、「NFS クライアントの権限」を「読み取り専用」または「書き込み可能」に設定します。OK をクリックして選択内容を確認し、直前のページに戻るか、または「次へ」をクリックして別のクライアントを追加します。

### ！ヒント

NFS ホスト、サブネット、またはネットグループのユーザー権限を設定するときは、矛盾が起きないように気をつけてください。A というホストを AAA というグループに属させる場合は、A のアクセス権限を読み取り専用を設定し、AAA を書き込み可能に設定するようないないようにします。矛盾が起きた場合は以下のようにして対処します。

1. ホストの設定が Host\* と矛盾した場合は、そのホストの設定を使用します。
2. ホストの設定がサブネットの設定と矛盾した場合は、そのホストの設定を使用します。
3. ホストの設定がネットグループと矛盾した場合は、ユーザー権限を最初に与えたものが優先します。AAA というネットグループを書き込み可能に設定してある場合は、A という1つのホストを後から読み取り専用を設定することはできません。

## NFS ユーザー権限の削除

NFSユーザーのアクセス権限を削除するには、「NFSクライアントの権限」列から削除したいものを選択し(複数選択はCtrl、連続選択はシフトキーを使用)、削除をクリックします。

## NFS ユーザー権限の修正

すでに設定してあるアクセス権限を修正するには、「NFSクライアントの権限」列から修正したいものを選択し、削除し、新しいアクセス権限を追加します。

### ! ヒント

本製品は「Telnet」に対応していません。

NFSクライアントのシステム管理者は、NASサーバへ移動したいときは「mount」コマンドを使用する必要があります。

コマンドは以下のように使用します。

```
mount IP:/Shared_Folder_Path Mount_Point
```

ここで IP は NAS サーバの IP アドレスです。

Shared\_Folder\_Path は NFS クライアントと共有するフォルダです。

デフォルトでは /sharen/Shared\_Folder\_Name に設定されています。

Mount\_Point は UNIX のシステム管理者が設定します。

### 例

NASサーバの IP アドレスが 192.168.1.8 のとき、クライアントの /user1 フォルダを NAS サーバの「public1」というフォルダ(/share1/public1)にリンクさせた場合はコマンドを以下のように入力します。

```
mount 192.168.1.8:/share1/public1 /user1
```

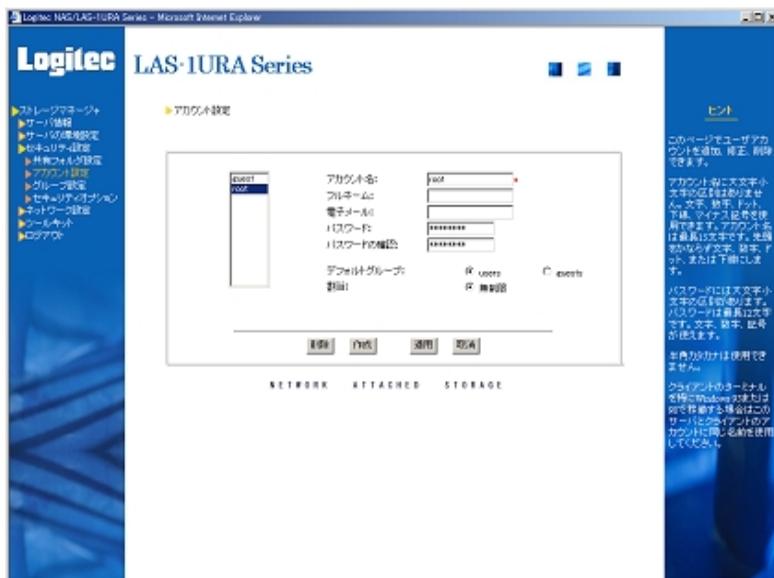
## アカウント設定

LogitecNAS は、最大 512 件のユーザーアカウントをサポートしています(ローカルマシン、Windows PDC、NIS サーバのアカウントを含む)

NAS サーバにアクセスできるのは以下の 3 種類のユーザーアカウントです。

1. ローカルマシンのアカウントを持つローカルユーザー
2. Windows 2000/NT 4.0 PDC(Primary Domain Controller)のアカウントを持つユーザー
3. UNIX NIS サーバのアカウントを持つユーザー

## ローカルアカウント



本製品ではNAS サーバ(ローカルマシン、本機)にWindows、Apple、および ユーザーのアカウントを設定することができます。これらのクライアントはアカウント名とパスワードを入力するだけでNAS サーバにアクセスできます。システム管理者は、ユーザーアカウントを追加、修正、削除できます。アカウント名には大文字小文字の区別がありません。最長 15 文字です。英字、数字、ドット、下線、マイナス記号が使えます。先頭はマイナス記号にできません。パスワードには大文字小文字の区別があります。パスワードは最長 12 文字です。英字、数字、記号が使えます。

## ！ヒント

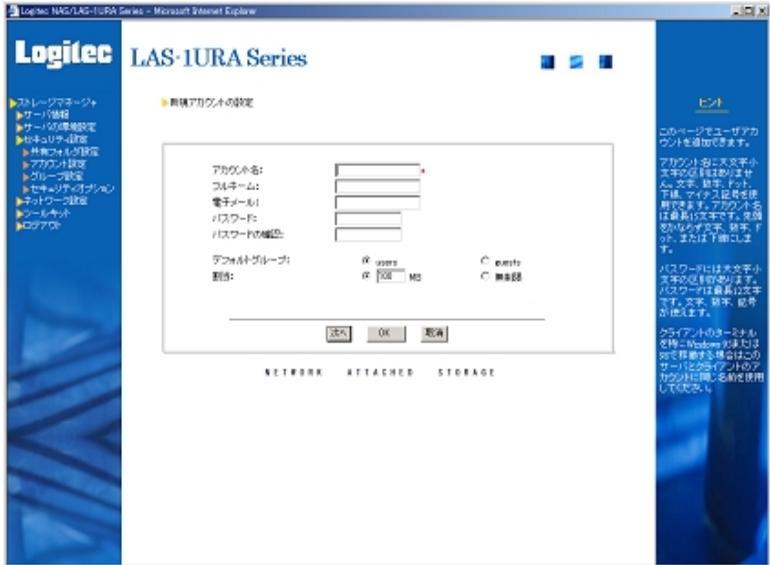
1. Windows 98クライアントのパスワードには大文字小文字の区別がなく、Windows 2000/NT4.0、UNIX、Appleクライアントなどそれ以外のクライアントのパスワードには区別があります。
2. 本製品では、Windows 98クライアントには最長13文字のフォルダ名のみが表示されます。したがって、Windows 98クライアントに新しいアカウントを追加したいときは、そのアカウントの名前が13文字を超えないよう注意してください。13文字を超えると、Windows 98のクライアントがネットワークから各自のホーム(home)フォルダにアクセスできなくなります。  
Windows NTクライアントには最長12文字のフォルダ名のみが表示されます。
3. Appleクライアントには最長8文字のパスワードを使用することができます。したがって、NASサーバ上のAppleクライアントにパスワードを設定するときは8文字以内に制限してください。

## デフォルトのローカルアカウント

サーバには「root」と「guest」の2つのアカウントがあらかじめ設定されています。

1. root:「admins」グループと「users」グループの両方に属するシステム管理者のアカウントです。サーバ設定の最初の手順として、このアカウントのパスワードを設定してください。
2. guest:「guests」グループに属するアカウントです。デフォルト設定ではパスワードや割当の制限はありません。このアカウントの目的は、LAN上のすべてのユーザーがアクセスでき、そのため(「public」などの)NASサーバのゲストフォルダにアクセスできるようにすることです。  
したがってアカウントを登録されていないユーザでもこのguestアカウントによって接続が可能となります。  
安全性を確保するために、かならずしも無許可のユーザー全員にアクセスさせたくない場合があります(例:NASサーバにアカウントを持たないユーザー、同じLAN上の他のアカウントサーバにアカウントを持つアカウント)。「guest」アカウントにパスワードを付加することにより、無制限にアクセスできないようにできます。

## ユーザーカウントの追加



新たにローカルユーザーを追加するには、「作成」をクリックします。「新規アカウントの設定」ダイアログが現れます。「アカウント名」、「フルネーム」、「電子メール」、「パスワード」を入力します。「デフォルトグループ」でそのアカウントにホームフォルダを持たせるかどうかを選択します。持たせる場合はユーザー「users」グループを選択します。持たせない場合は「guests」を選択します。新たにユーザー「users」グループにアカウントを作成すると、同じ名前でもフォルダが作成されます。このフォルダをユーザー「users」のホーム「home」フォルダといいます。それぞれのホーム「home」フォルダにアクセスできるのは同じ名前アカウントを持つユーザーのみです。

### ！ヒント

1. ユーザーグループからゲストグループへアカウントを移動するときは注意が必要です。そのアカウントのホームフォルダが内容ごとすべて消去されます。
2. デフォルト設定では、すべてのユーザーのフォルダがNASサーバの1番目のハードディスク (volume) に保存されます。  
Non-RAIDハードディスク構成で1番目のハードディスク ([volume]) が一杯になると、ユーザーがホームフォルダに普通の方法でアクセスすることはできなくなります。  
その場合は、できるだけ速やかにNASサーバを新たに購入して容量を大きくする必要があります。

ここまでが終わったら、アカウントごとにディスク割当を設定することができます。guest と root アカウントのデフォルトの使用可能容量は「無制限」です。セキュリティ確保のために、NASサーバまたはアカウントサーバに適当なアカウントを持たない guest ユーザーに対するディスク割当に制限を設けたい場合は、そのままその guest アカウントのディスク割当を設定します。それ以外のアクセス権限は「セキュリティオプション」で設定します。

Windows 2000/NT 4.0またはAppleのユーザーがNASサーバにアクセスしようとする時、WindowsオペレーティングシステムがNASサーバまたはWindows PDCのアカウントとパスワードの入力を求めてIDを確認します。Windows 98の場合、Windowsが自動的にクライアントのIDを検索し、パスワードだけを求めます。

WindowsのユーザーアカウントがNASサーバのアカウントと同じでない場合は、そのクライアントはNASサーバにログインできません。したがって、NASサーバのアカウントとWindowsのアカウントとを絶えず同期させておく必要があります。

## ローカルユーザーの削除

ローカルユーザーを削除するには、左側のアカウントをそのまま選択し(複数選択はCtrl、連続選択はシフトキーを使用)し、「削除」をクリックします。

## Windows のドメインアカウント

ネットワークにWindows 2000 またはWindows NT 4.0 のドメインが存在する場合は、NASサーバをそのドメインに追加するだけでPDC権限設定のメリットを利用して、PDCのすべてのアカウントに対してNASサーバの記憶領域へのアクセスを許可することができます。そうしたクライアントがNASサーバにアクセスしたい場合は、Windows 2000/NT 4.0 PDCの自分のアカウント名とパスワードを入力します。

NASサーバがWindows 2000/NT 4.0ドメインの一部になると、NTドメインアカウントという新しいタブがこのページで使用できるようになります。そこにはすべてのユーザーアカウントが表示されます。表示されるのはアカウント名のみです。パスワードおよびその他の情報は表示されません。クライアントがNASサーバにアクセスしようすると、そのアカウントとパスワードの情報がWindows PDCサーバに転送され、そこで検証されます。検証した結果が合格であれば、アクセスが許可されます。PDCサーバがそのユーザーを許可しない場合は、ローカルユーザーの一覧との検証が行われます。ログインデータがローカルユーザーと一致するとアクセスが許可されます。

PDCサーバとNASサーバのそれぞれにアカウント「user1」をユーザーが持っており、パスワードがそれぞれ異なる場合は、どちらか一方のパスワードが入力されればアクセスが許可されます。ただし、Windows PDC にすでに存在しているアカウントがNASサーバに作成されないようにする必要があります。別々のユーザーが同じ名前のアカウントを共有する事態も避けてください。

LogitecNAS はWindows PDC アカウントの一覧を 15 分ごとに読み取ります。

PDC に変更があると、NAS サーバにも表示されます。

デフォルトでは、Windows のドメインアカウントにはホームフォルダがありません。この種のアカウントにホームフォルダを設定したい場合は、左側のアカウントからそのフォルダをそのまま選択し(複数選択はCtrl、連続選択はシフトキーを使用)、「ローカルに追加」をクリックします。選択したアカウントがローカルユーザーの一覧に表示されます。デフォルトではguestsグループの一部であるアカウントが表示されます。そのアカウントのパスワードをあらかじめ設定しておき、アカウントを guests グループから users グループへ移動します。

Windows のドメインアカウントごとにディスク割当を設定するか、または「セキュリティオプション」で新しいアカウントのデフォルト値を選択します。

#### ！ヒント

1. Windows と LogitecNAS とではパスワードの形式が異なるため、「NT ドメインアカウントタブ」のアカウント情報を「ローカルアカウント」へ追加すると、Windows PDC ユーザーのパスワードをそのままローカルマシンに重複させることができなくなります。そうしたアカウントのパスワードは「ローカルアカウントタブ」に手動で追加する必要があります。したがって、PDC に設定されているのと同じパスワードを設定するようにしてください。
2. アカウント / グループ名は最長 15 文字まで表示されます。アカウント情報を Windows のドメインに追加すると、Windows PDC で 15 文字を超えるアカウント / グループ名は NAS サーバに重複されなくなります。警告メッセージが 1 つだけ表示され、重複したすべてのアカウントを知らせます。
3. NAS サーバが Windows ドメインの一部である場合は、15 文字を超える名前を持つアカウント / グループを Windows PDC に追加しないようにする必要があります。追加すると、そのアカウント / グループを NAS サーバに重複させることも警告メッセージを表示させることもできなくなります。

## UNIX NIS アカウント

ネットワークにすでにUNIX NISドメインが存在する場合は、そのままNASサーバをそのUNIX NISドメインに追加することで、NISサーバからアクセス設定を検索することができます。

UNIX NISドメインにNASサーバを追加すると(「ネットワーク設定」「UNIX NIS」を参照願います)、このページに「UNIX NIS アカウント」というタブが現れます。NISサーバから検索したすべてのユーザーが表示されます。このページでNISアカウントのディスク割当を設定することができます。

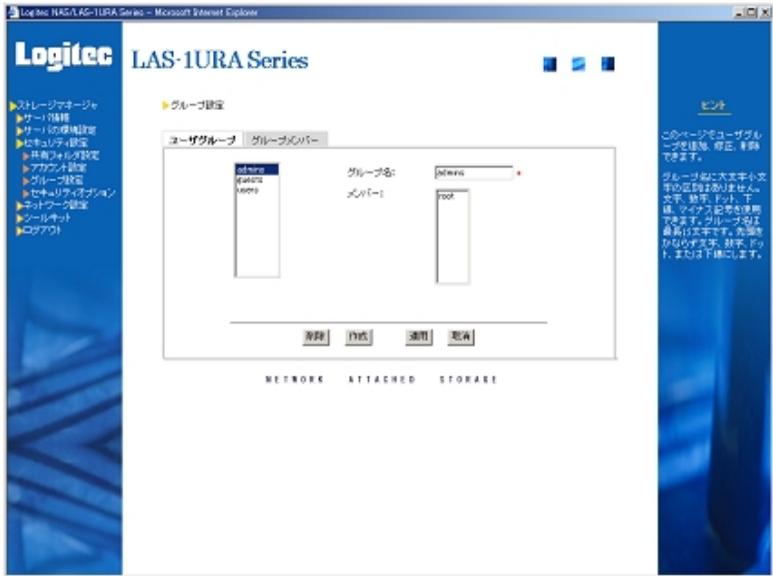
NFSクライアントに新たにアカウントを追加すると、そのアカウントに対応するグループがアカウントごとに自動的に生成されます。LogitecNASは最大128のユーザーグループのみサポートし、したがって128を超えるユーザーグループが存在するとNASサーバがNISドメインに統合することができなくなるため、この機能を無効にするようにしてください。

### ！ヒント

ディスク割当とは1つの「volume」ごとの割当をいいます。たとえば、「volume」が合計4つあるNon-RAID構成では、「user1」の割当を100MBに制限するということは自由にできる記憶領域を合計で $100\text{MB} \times 4 = 400\text{MB}$ にするということの意味します。

# グループ設定

## ユーザーグループ



このページでユーザーグループを追加、修正、削除できます。LogitecNASは、最大128個のユーザーグループをサポートしています(ローカルマシン、Windows PDC、NIS サーバのユーザーカウントを含みます)。グループ名には大文字小文字の区別がありません。最長15文字です。英字、数字、ドット、下線、マイナス記号が使えます。先頭はマイナス記号にできません。

## デフォルトユーザーグループ

本製品のデフォルトグループにはadmins(rootをデフォルトメンバーとするシステム管理者グループ)、users(自分のホームフォルダを持つ標準ユーザー)、およびguests(自分のホームフォルダを持たず、guestをデフォルトメンバーとして持つ標準ユーザー)の3つがあります。

admins - システム管理者グループ。このグループのメンバーのみがシステム設定を変更できます。

rootはこのグループのデフォルトのメンバーです。

users - すべてのユーザーの帰属先のユーザーグループ。このグループのメンバーは、自分のアカウントにちなんで名付けられたフォルダおよびその他、アクセス権限を有するフォルダにアクセスすることができます。

rootはこのグループのデフォルトのメンバーです。

guests - 「users」グループのメンバーとは異なり、guestsは自分のホームフォルダを持ちません。NAS サーバに保存されているパブリックフォルダにアクセスすることができます。guest というアカウントはこのグループのデフォルトのメンバーです。

#### ! ヒント

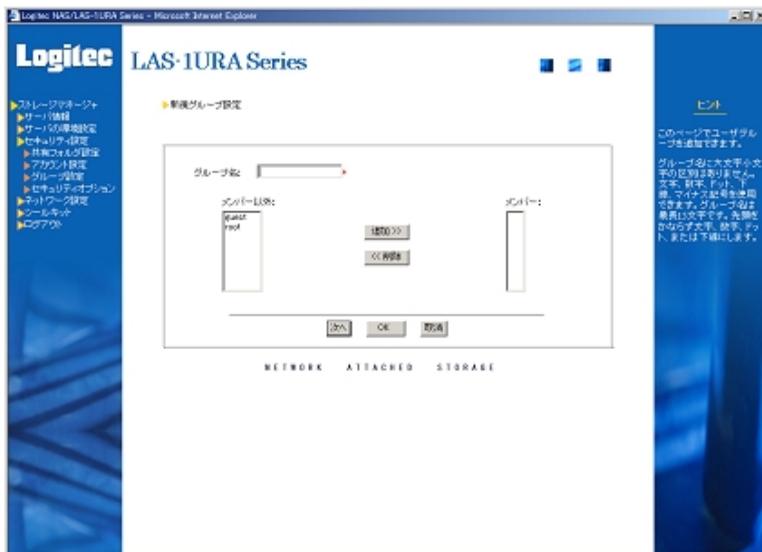
ユーザーは「users」か「guests」のいずれかにのみ帰属させることができます。両方に属させることはできません。AとBという2つの独立した部門があり、AがNAS サーバを購入して情報の保存と共有を行うとします。記憶領域の一部をBに使用させることにします。その場合、A、Bそれぞれの部員のアカウントを設定し、アカウントAを「users」に分類し、Bの部員を「guests」に分類します。こうしてAの部員に各自のホームフォルダを持たせ、Bの部員にはアクセス権限を持つフォルダのみアクセスできるようにします。

## ユーザーグループの修正

左側の区画には、既存グループの一覧が表示されます。マウスでグループを選択します。右側に「グループ名」と「メンバー」が表示されます。

グループの名前を変更したいときは、そのまま「グループ名」列をクリックし、変更します。変更したら、「適用」をクリックします。「グループメンバー」ページではメンバーの追加と削除が行えます。

## ユーザーグループの追加

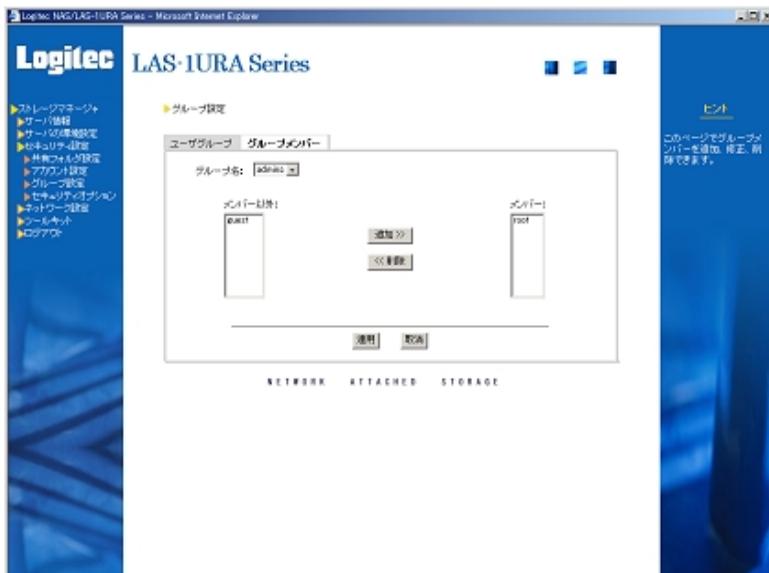


新たにグループを追加するには、「作成」をクリックします。「新規グループ設定」ダイアログが現れます。グループに付ける新しい名前を入力し、グループのメンバーを「メンバー以外」一覧表から選択します（複数選択はCtrl、連続選択はシフトキーを使用）。「追加」をクリックして選択したメンバーを追加します。「OK」を選択して確定するか、または「次へ」で他のグループを追加します。

## ユーザーグループの削除

グループを削除するには、一覧表からそのグループを選択し（複数選択はCtrl、連続選択はシフトキーを使用）、「削除」をクリックします。

## グループメンバー



このページでグループメンバーを追加、修正、削除できます。「メンバー」欄にこのグループに所属するメンバーが表示されます。このグループに属さないユーザーが左側の「メンバー以外」欄に一覧表示されます。NASサーバがWindows NT4.0/2000のドメインに属し、「アカウント設定」ページのWindows PDCユーザーがローカルアカウントに移動してある場合は、そうしたWindowsドメインのユーザーはメンバーの一覧に表示されません。その代わりにローカルユーザー(Local Users)のみ表示されるため、複数が選択され同じユーザーのグループに設定されることがありません。

## グループメンバーの追加

新たにグループメンバーを追加するには、一覧表から追加したいグループを選択し、追加したいメンバーを「メンバー以外」一覧表から選択し「追加」をクリックします。(複数選択はCtrl、連続選択はシフトキーを使用)。

「users」グループまたは「guests」グループにすべてのユーザーを帰属させる必要があることを忘れないようにします。このページでメンバーを「guests」グループから「users」グループへ移動すると、そのアカウントが自動的に「guests」グループから削除されます。逆も言えます。ただし、「guests」グループと「users」グループの1方に属するアカウントを他方に設定することができます。設定済みadminsグループその他のシステム管理者が設定したグループでも行えます。

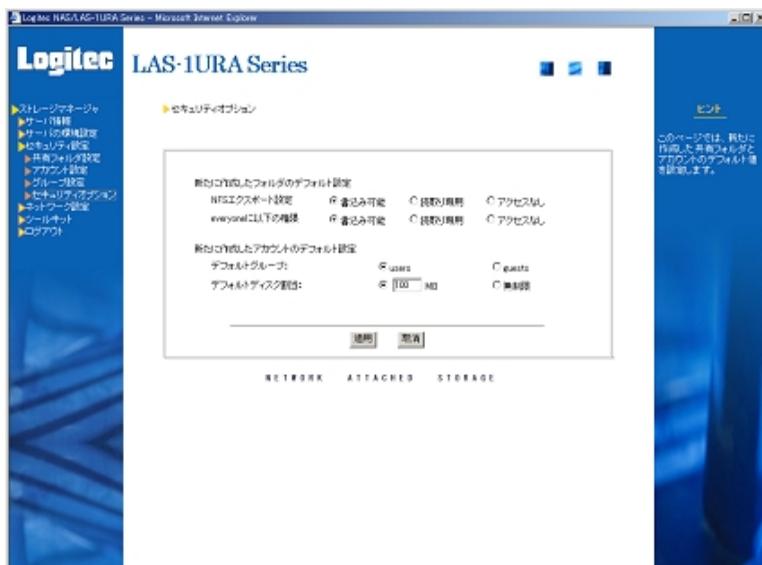
## グループメンバーの削除

グループからメンバーを削除するには、メンバー一覧表からそのメンバーの名前を選択し(複数選択はCtrl、連続選択はシフトキーを使用)、「削除」をクリックします。

### ！ヒント

ユーザーがサーバに接続した状態でシステム管理者がそのユーザーのセキュリティ設定を修正する場合は、その変更内容が即座にアクティブにならず、そのユーザーがログアウトし、再度ログインするとアクティブになります。

## セキュリティオプション



このページでは、新たに作成した共有フォルダとユーザーアカウントの環境設定を修正することができます。

新たに作成したフォルダのデフォルト設定

### 1. NFS エクスポート： 書き込み可能 読み取り専用

新規フォルダを完全読み取り書き込み可能許可(「書き込み可能」)でエクスポートすることも、書き込み保護(読み取り専用)でエクスポートすることもできます。

### 2. 全員のアクセス権限： 書き込み可能 読み取り専用

Windows、Apple、Novell のユーザーにデフォルトで完全読み取り書き込み権限を許可する(「書き込み可能」)か、それとも新規作成されたフォルダのみ読み取りを許可する(「読み取り専用」)かを規定することができます。

## 新たに作成したアカウントのデフォルト設定

1. デフォルトグループ：    users    guests

新たに作成したユーザーをデフォルトでどのグループに属させるかを選べます。新規作成したアカウントに自動的にホームフォルダを持たせたい場合は「users」を選び、そうでない場合は「guests」を選びます。

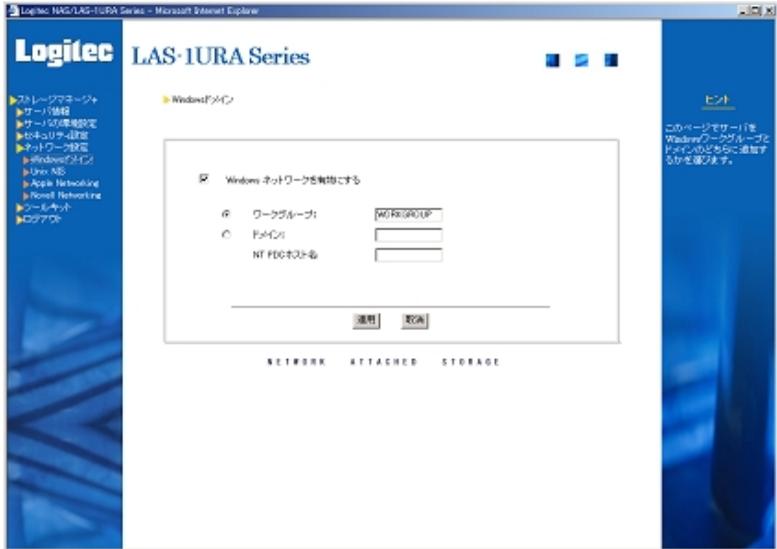
2. デフォルト割当：    \_\_\_\_MB    無制限

この設定により、新たにユーザーに設定する記憶領域の分量を制限することができます。また、どの制限も課さないことにすることもできます(無制限)。

## ネットワーク設定

「ネットワーク設定」にはNASサーバにサポートさせるネットワークの種別を設定します。デフォルト設定では、Windows、UNIX、Apple ネットワークの同時使用が可能です。このデフォルト設定は必要に応じて変更することができます。

## Windows ドメイン / ワークグループ設定



NASサーバを起動してWindowsクライアントにアクセスさせるかどうかはシステム管理者が決めます。Windows クライアントにアクセスさせたい場合は「Windows ネットワークを有効にする」を選択し、そのサーバの「ワークグループ」または「ドメイン」を選択します。ワークグループを選択した場合は、ストレージマネージャのワークグループを選択します。

NASサーバをWindows ドメインに追加することにした場合は、そのNAS サーバのアカウントをPDC(Windows NT/2000 Server)に追加する必要があります。次に、Windows のドメイン情報をストレージマネージャの「ネットワーク設定」「Windows ドメイン」ページに入力します。

## Windows NT 4.0 PDC の設定

1. スタートメニューから、「プログラム」 - 「管理ツール」を選択し、「サーバマネージャ」を選択します。
2. サーバマネージャを開き、「コンピュータ」 - 「ドメインへ追加」を選択します。
3. コンピュータのタイプ」列で「コンピュータの名前」の「Windows NT WorkstationまたはServer」を選択し、本機サーバの名前(「サーバ構成」 - 「基本設定」)を入力します。「追加」を押して操作を終了します。

## Windows 2000 PDC の設定

1. スタートメニューから、「プログラム」 - 「管理ツール」を選択し、「アクティブディレクトリのユーザーとコンピュータ」を選択します。
2. Windows 2000 PDC に加える場合は、ドメインモードが「混在モード」に設定されていることを確認してください。「混在モード」とは、Windows 2000 の特定の機能を犠牲にし、操作性をそのまま残すことで下方互換性を備え、Windows 2000 の特殊なモードを言います。
3. 「アクティブディレクトリユーザーとコンピュータ」画面を参照してください。
4. 「コンピュータ」を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、「新しいオブジェクト」 - 「コンピュータ」を選択します。
5. 「コンピュータの名前」に NAS サーバの名前を入力します。Windows 2000 以前のオペレーティングシステムとの互換性を保ちたいときは、「Windows 2000 以前のコンピュータをこのアカウントで使用」を選択し、OK をクリックします。

## NAS サーバの設定

ストレージマネージャの「ネットワーク設定」 - 「Windows ドメイン」画面で Windows のドメインと PDC のホスト名を入力します。BDC (Backup Domain Controller) が別途存在する場合は、LogitechNAS が BDC の記録を残します。

## Windows PDC 権限設定の適用

サーバを Windows ドメインに加えると、新しいタブが「セキュリティ設定」アカウント設定」画面に現れます。これを「NT ドメインアカウント」といいすべてのユーザーアカウントが表示されます。

クライアントが NAS サーバにアクセスしようとする時、そのアカウントとパスワードの情報が Windows PDC サーバに転送され、そこで検証されます。検証した結果が合格であれば、アクセスが許可されます。PDC サーバがそのユーザーを許可しない場合は、ローカルユーザーの一覧との検証が行われます。ログインデータがローカルユーザーと一致するとアクセスが許可されます。

PDC サーバと NAS サーバの両方で同じ名前を持つアカウントが自動的に結合されることに注意が必要です。たとえば、PDC サーバと NAS サーバの両方に「user1」アカウントが存在し、パスワードがそれぞれ異なる場合は、どちらか一方のパスワードが確認されればアクセスが許可されます。ただし、Windows PDC にすでに存在しているアカウントが NAS サーバに作成されないようにする必要があります。別々のユーザー が同じ名前のアカウントを共有する事態も避ける必要があります。

## ! ヒント

Windows のドメインでの作業に関する注意事項:

1. Logitec という NAS サーバのアカウント Logi tec が PDC にあり、Windows のドメインにログイン、ログアウトした場合、その後に再度ログインできなくなる可能性があります。その場合は、PDC のアカウント Logi tec を削除し、新たにアカウントを作成し、ドメイン名と PDC ホスト名をストレージマネージャに入力します。
2. NAS サーバを Windows ドメインまたはワークグループから別のドメインまたはワークグループへ移動しても、Windows クライアントのネットワーク上の元のドメインまたはワークグループにその NAS サーバが表示されたままになる場合があります。  
Windows 自体の制限であり、セキュリティが破られたことにはなりません。  
事実サーバはその時点で元のドメインにもワークグループにも存在しません。
3. Windows のドメイン内で PDC に障害が発生すると、その時点で Windows のクライアントが NAS サーバにアクセスできなくなります。これは Windows ネットワーク環境の限界です。
4. セキュリティを確保するために、PDC の既存の root アカウントが NAS の root アカウントと結合されることはありません。言い換えれば、クライアントが root アカウントで NAS サーバにログインしたい場合は、NAS の root パスワードを入力してシステム管理者としてアクセスする必要があります。
5. NAS サーバがドメインの一部になると、Windows の同じドメイン内のユーザーが NAS サーバにアクセスできるようになります。他のドメインまたはワークグループのメンバーがサーバにアクセスすることはできません。

## 例

NAS が Windows のドメイン A の一部になっており、そのドメイン内の PDC がパスワード 123 でアカウント「user1」を知っているとします。このアカウントが属するクライアントが別のドメイン B の一部になり、PDC アカウントに関する正しいログイン情報を出力したとしても NAS サーバにアクセスすることはできません。

## UNIX NIS ドメイン設定



このオプションでは、サーバをNIS ドメインの一部にするかどうかを選択します。一部にする場合は、ドメイン名を入力します。

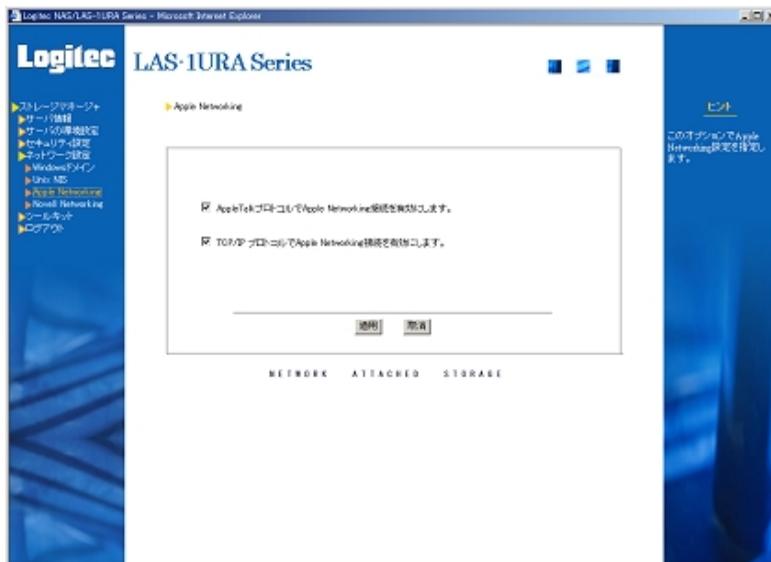
NIS ドメインに加えると、「セキュリティ設定」 - 「アカウント設定」に「UNIX NIS アカウント」という新しいタブが現れます。

すべての利用可能なユーザーアカウントがNIS サーバに表示されます。

### 注意

NAS サーバをNIS ドメインに追加してある場合に、NIS サーバが使用可能でなくなるとNAS サーバの起動に長時間かかる場合があります。NAS サーバを再起動 / 電源投入する前にNIS サーバが使用可能であることをご確認ください。

# Apple Network



このオプションは、サーバに AppleTalk および TCP/IP を使用し、Apple クライアントが NAS サーバにアクセスできるかどうかを指定します。

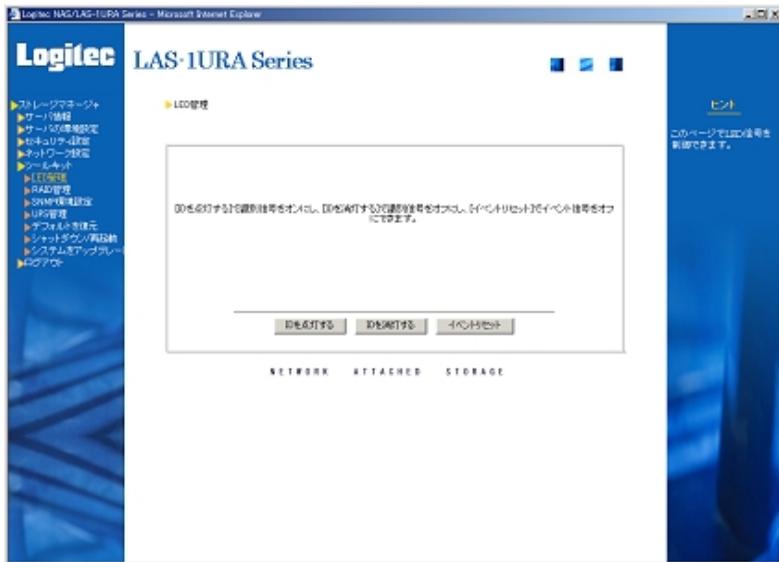
## ！ ヒント

1. Apple クライアントで英語のウェブサイトを閲覧していて多数の " 十字記号 " が表示された場合は、コントロールパネルから Smartview を終了します。
2. Apple クライアントが root アカウントで NAS サーバにアクセスすることはできません。システム管理者 root で Apple クライアントからサーバにアクセスするためには、そのサーバに別の admins グループアカウントを作成してください。
3. Apple クライアントが 4GB を超えるファイルを NAS サーバに保存することはできません。



## ツールキット

### LED 管理

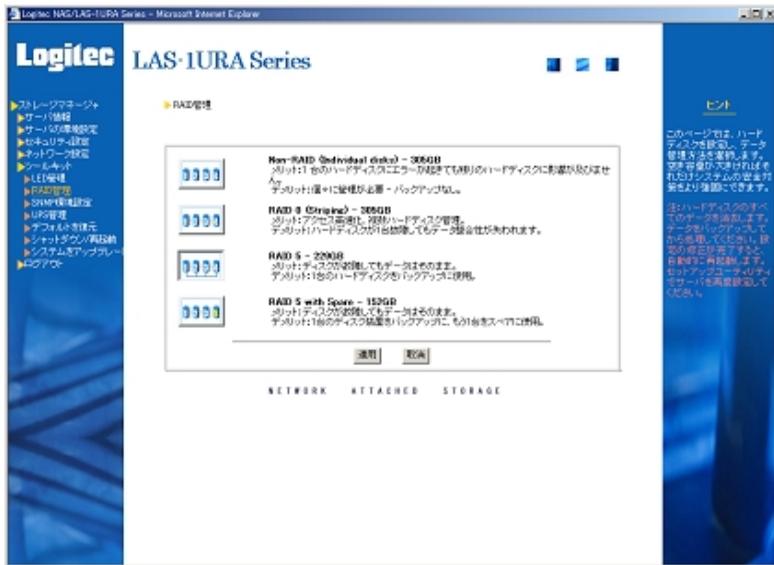


ここではLEDインジケータを調整することができます。

サーバのフロントパネルにはIDインジケータがあります。非常時には、このページの「IDを点灯する」ボタンをクリックするだけでIDインジケータをオンにできます。IDが点灯すると、グループ内で問題のあるサーバをたやすく見分け、すばやく障害を解消することができます。障害を解消したら、「IDを消灯する」ボタンをクリックすることを忘れないようにします。

サーバのフロントパネルにはもう1つLEDインジケータがあります。メモリ内でエラー、システムファン、ハードディスク、またはシステム温度でエラーが起きると、このLEDが点灯します。この非常灯は、障害が解消し、サーバを再起動するとはじめて消灯します。ただし、システム温度が極端に上昇し、その後に標準に回復した場合は、この温度警告インジケータは自動的に消灯しません。「温度が標準に戻りました。」という意味の電子メール通知が到着したら、このページの「イベントリセット」ボタンを手動でクリックしてLEDインジケータを消灯させてください。

## RAID 管理



LogitecNASでは、次のようなハードディスク環境設定オプションがNASサーバに用意されています。

Non-RAID、RAID 0、RAID 5、ホットスベア搭載 RAID 5。(RAID の詳細については、「付録1」をご参照ください。)このページでは、ハードディスクの環境設定を行い、データ管理方法を選択します。ハードディスクの環境設定を変更しても、次の設定は変わりません。サーバ名、ネットワークの環境設定、ユーザーカウント(root パスワードを含みます)、グループ、共有フォルダ(フォルダの内容は含みません)、SNMP設定。ここで、RAID 以外の環境設定をそれ以外のどのような RAID の環境設定へ変更してもシステムが複数「volume」から単一「volume」へ変更されることを忘れないようにします。すべての共有フォルダが /share1 というディレクトリに結合され、フォルダ名名の末尾が ".sharen" になります。

### 変更例

4 台の Non-RAID ディスクがシステムに搭載されており、それぞれに public1、public2、public3、public4 というデフォルトの共有フォルダが保存されています。それぞれの実際のパスは /share1/public1、/share2/public2、/share3/public3、および /share4/public4 です。ハードディスクの環境設定を RAID 5 に変更してディスクを単一の「volume」に結合します。第2、第3、第4「volume」に記憶されているパス public2、public3、public4 はそれぞれ /share1/public2.share2、/share1/public3.share3、/share1/public4.share4 に変わります。共有フォルダの名前はそれぞれ Public2、share2、public3.share3、および public4.share4 に変わります。

フォルダ名の末尾に ".sharen " が付くため、このフォルダの保存場所がわかりません。Windows98 クライアントは 13 文字を超えるフォルダ名を表示できず、Windows NT クライアントは 12 文字を超えるフォルダ名を表示できないため、新たに結合したフォルダ名をそれぞれ短くする必要があります。

そのようにしてすべてのクライアントが問題なくフォルダにアクセスできるようにしてください。

これについては、デフォルトのフォルダ以外にも、システム管理者がカスタマイズする共有フォルダに当てはまります。

### 注意

RAID レベルを変更すると、ハードディスクに保存されているすべてのファイルが消去されます。

## Non-RAID (個別ディスク)

この方法では RAID オプションを使用しません。

メリット : 1 台のハードディスクにエラーが起きても残りのハードディスクに影響が及びません。

デメリット : 個々に管理が必要? バックアップなし。

### ! ヒント

このオプションではバックアップが行われず、アクセスが遅いため、Non-RAID 環境設定の使用をお勧めできません。加えて、すべてのユーザーの home フォルダが 1 番目の「volume」に保存されるため、1 番目のハードディスク (volume) が一杯になると、クライアントは標準的方法では自分の home フォルダにアクセスできなくなります。

## RAID 0 (ストライピング)

すべてのハードディスクを1台の大型ハードディスクとして取り扱いますが、並列書き込みにより個別にディスク管理するより高速に行えます。

メリット : 複数ディスクアクセス、管理の高速化。個別にディスク管理するより高速。

デメリット : ハードディスクが1台故障してもデータ整合性が失われます。

### ! ヒント

ハードディスクを2台かそれ以上搭載したシステムに当てはまります。このオプションはNon-RAIDアクセスより高速ですが、バックアップを行わないため、安全性のニーズが低い場合にのみお勧めします。

## RAID 5

RAID 5 ではバックアップオプションが用意されています。この環境設定では、複数のディスクを1台の仮想ディスクとして取り扱うことでアクセス速度を高速化し、パリティモードにより1台のディスクのサイズと同等の記憶領域に冗長データを記憶し、データ復元を可能にします。

n台のディスクで実際に使用できる記憶領域は、n-1台分となります。

メリット : アクセスの高速化。1台のディスクに障害が発生してもデータ整合性が損なわれません。

デメリット : 1台のハードディスクをバックアップに使用。

### ! ヒント

このオプションでは十分なデータ安全性が可能であり、記憶領域が多いため、費用を節減できます。安全性のニーズが高いシステムにお勧めします。

## ホットスペア搭載 RAID 5

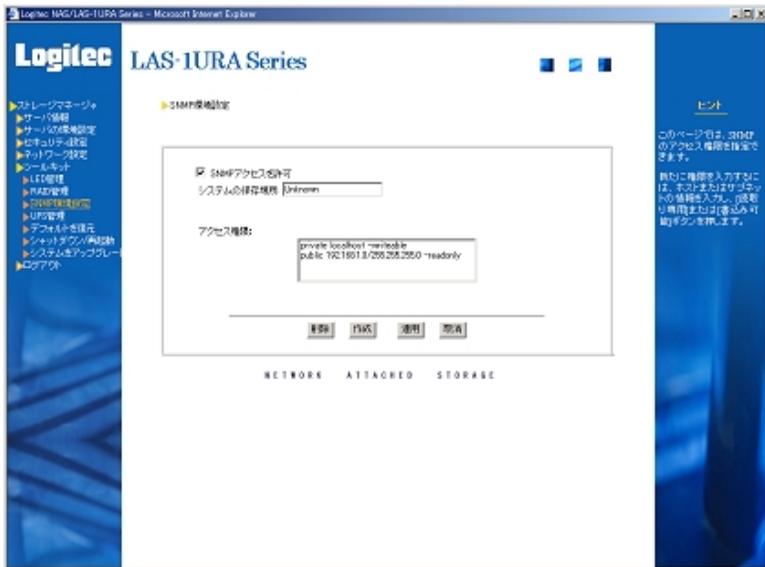
ホットスペア搭載 RAID 5 は、RAID 5 のディスクアレイに1台のスペアディスクを追加し、1台目を冗長記憶に使用し、2台目をスペアに使用します。4台のディスクで実際に使用できる記憶領域は、2台分となります。

メリット : アクセスの高速化。1台のディスクに障害が発生してもデータ整合性が損なわれません。スペアディスクにより、データ復元の高速化が可能。

### ! ヒント

ディスクアレイのうち1台のディスクに障害が発生した場合、原因を見つけ、障害が発生したディスクを交換してシステムを機能完備の状態に復帰させることが重要となります。ホットスペア搭載 RAID 5 では、新しいディスクの準備が整っているため、高速にデータ復元が行えます。

## SNMP 環境設定



このオプションでは SNMP アクセスを可能にします。そのためには「SNMP アクセスを許可」を選択し、NAS サーバーの場所を入力し、「適用」をクリックします。「アクセス権限」に入力する内容は以下のように 3 つに分けることができます。

1. 番目の部分は NAS サーバーが属するグループ名 (community) です。システム管理者が選びます。
2. 2 番目の部分は その community のホスト (host) またはサブネットです。
3. 3 番目の部分は SNMP 全体における その community のホストまたはサブネットの NAS サーバークラスアクセス権限です。

## UPS 管理



LogitecNAS は、APC Smart Series の UPS のみに対応しています。シリアル接続、SNMP の 2 つが用意されていますが、現在サポートしているのはシリアルポートのみです。

### ❗ 注意

停電が発生し、UPS により LogitecNAS が停止させられた場合、復電されても LogitecNAS は自動的に再起動されません。復電後は手動で再起動してください。

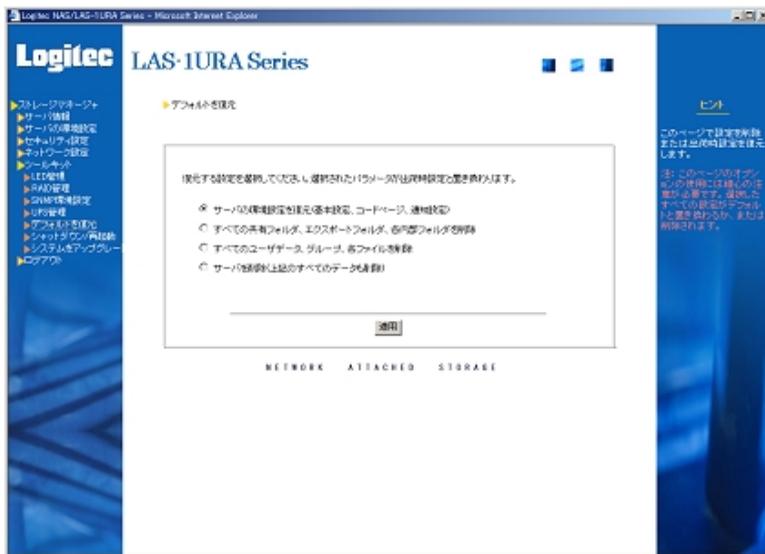
## シリアルポートで UPS を制御

NAS サーバの電源コードを UPS に接続します。NAS サーバのシリアルコネクタに UPS 装置を接続します。ストレージマネージャで「ツールキット」-「UPS 管理」へ移動し、「シリアルポートで UPS を制御」を選択し、「検査間隔」と「シャットダウンまでの遅延時間」のタイミングを入力します。「検査間隔」のインターバル設定によって UPS のステータスが検査されます。AC 電源が停電したり、バッテリー放電警告が発生したりすると、「シャットダウンまでの遅延時間」に入力された時間だけ待ちがかけられます。ただしそれまでに障害に対処した場合はかかりません。

## SNMP で UPS を制御

現在サポートされていません。使用しないでください。

## デフォルトを復元



LogitecNAS では、どの設定についても出荷時初期値を復元したり、システムに設定されているすべてのユーザー設定を削除することができます。このページでは以下の4つのオプションが使用できます

1. 「サーバの環境設定を復元(基本設定、コードページ、通知設定)」ストレージマネージャの「サーバの環境設定」を出荷時初期値に戻します。
2. 「すべての共有フォルダ、エクスポートフォルダ、各内部フォルダを削除」
3. 「すべてのユーザーデータ、グループ、各ファイルを削除」
4. 「サーバを削除(上記のすべてのデータも削除)」

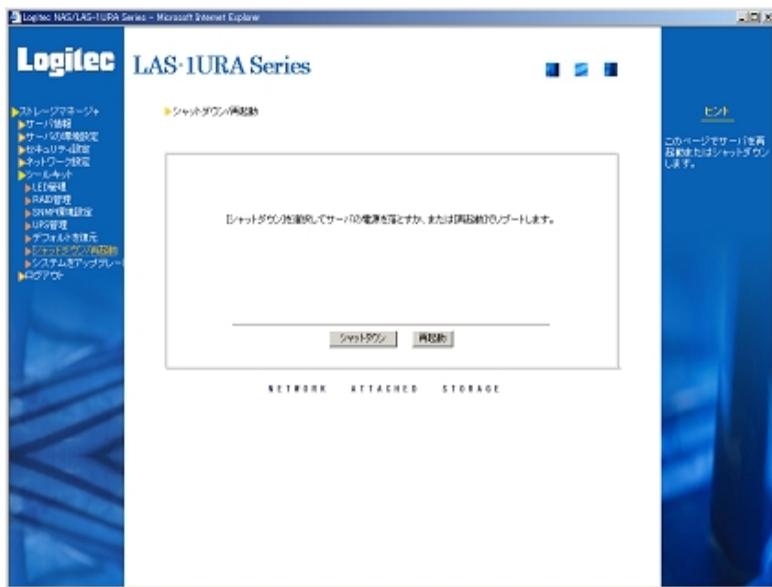
### ❗ 注意

このページのオプションは注意してご使用ください。選択したすべての設定が初期値と置き換わるか、または削除されます。

## シャットダウン / 再起動

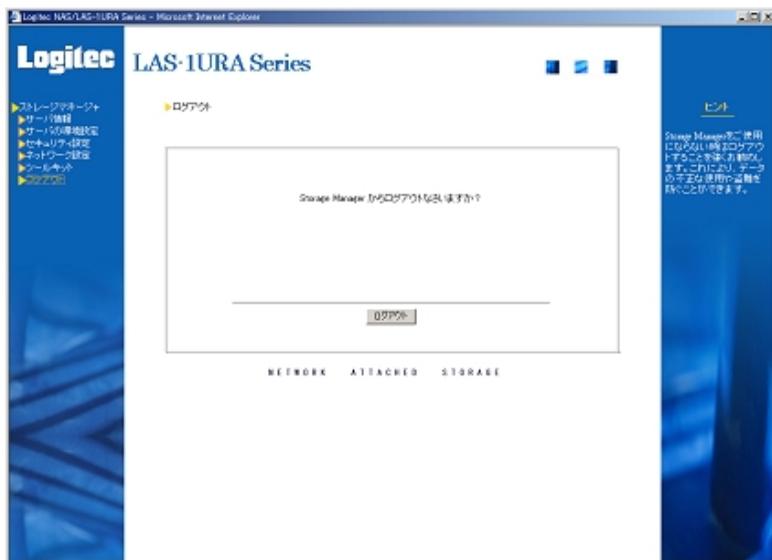
このページでサーバをシャットダウンまたは再起動します。NAS サーバの電源スイッチを使用してシャットダウンすることもできます。データ整合性が損なわれないようにするために、正しくシャットダウンするまで電源プラグを抜かないようにしてください。サーバのACケーブルをコンセントから抜き、移動するのは、電源ランプが消灯し、サーバの動作が完全に停止するまで待ってからにしてください。

## システム更新



現在サポートされていません。使用しないでください。

## ログアウト



データ記憶の安全性を損ねないために、ストレージマネージャの必要がないときはログアウトすることを忘れないようにしてください。

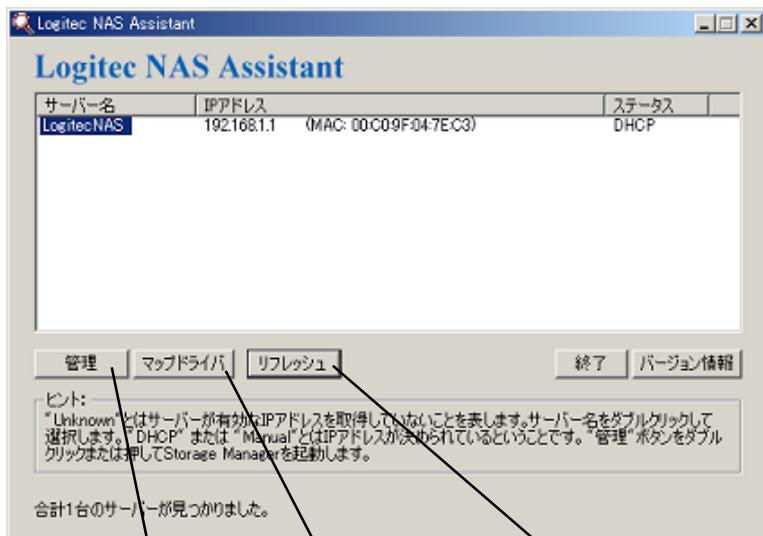
システム管理者およびその他のユーザーが以後サーバの環境設定を行いたい場合は、以下の3通りの方法があります。

1. ブラウザでサーバの IP アドレスに接続します。
2. LogitecNAS Assistant でサーバを見つけ、そのサーバの名前をダブルクリックしてストレージマネージャを起動します。
3. NetBIOS をサポートしている Windows クライアント上で、ブラウザのウィンドウのアドレスバーに直接サーバ名を入力できます。

システム管理者 (root) でなく、標準ユーザー (ローカルアカウント) である場合は、そのユーザーの個人データのみ修正できます。ストレージマネージャには、「個人情報」と「個人設定」、「ログアウト」オプションのみ表示されます。ユーザーは自分の電子メールアドレスとパスワードを設定することができます。

NAS サーバを Windows または UNIX NIS ドメインに加える場合は、Windows の PDC または NIS サーバアカウントでストレージマネージャからユーザーが自分の個人データを修正することはできません。ユーザーが自分の個人データを変更する必要がある場合は (パスワード、電子メールなど)、Windows PDC または NIS サーバのシステム管理者に問い合わせるようにしてください。

また、ネットワーク構成の環境設定が完了したら、システム管理者またはユーザーが LogitechNAS Assistant を実行し、「ドライブをマッピング」ボタンをクリックすることで、アクセス権限が設定されたすべての共有フォルダをネットワークドライブとして接続することができます。



ストレージマネージャが開き  
NAS サーバを管理する

再度検索

ネットワークドライブ  
マッピング

ネットワークから LogitecNAS Backup を使用して NAS サーバのデータを LAN 上の他の記憶装置にバックアップすること(およびリストアすること)ができます。データのバックアップと復元は以下のような3種類のデータについて行うことができます。

1. ユーザーアカウントとグループ: すべてのユーザーアカウントとユーザーグループの設定など。データのバックアップ中NAS サーバが Windows ドメインに属している場合は、Windows のドメイン情報(ドメイン名、PDC 名、PDC に持つアカウント)も同時にバックアップすることになるはずですが、したがって、NAS サーバにデータを復元する場合は、ドメイン情報も復元され、NAS サーバが Windows ドメインに統合されます。
2. ユーザーアカウント、ユーザーグループ、ユーザーデータ: ユーザーアカウント、ユーザーグループ、すべての共有フォルダに保存されているデータ、ユーザーの home フォルダに保存されているデータなど。データのバックアップ中NAS サーバがWindows ドメインに属している場合は、Windows のドメイン情報(ドメイン名、PDC 名、PDC に持つアカウント)も同時にバックアップすることになるはずですが、したがって、NAS サーバにデータを復元する場合は、ドメイン情報とすべてのドメインユーザーのファイルも復元され、NAS サーバが Windows ドメインに統合されます。

## データのバックアップ

1. LogitecNAS Backup を起動し、「バックアップ」ボタンをクリックしてバックアップウィンドウを開きます。
2. 「システム管理者パスワード」を入力します。
3. バックアップファイル(\*.bkp)を保存するパスを「参照」をクリックして選びます。
4. バックアップするデータのタイプを選びます。「ユーザーアカウント、ユーザーグループ、ユーザーデータ」をバックアップする場合は、NASサーバをバックアップしてから数日しか経過していないときは、「高度なオプション」を選択することで、「増分バックアップ」(Incremental Backup)を行うことができます。「増分バックアップ」では、過去数日間に変化したデータだけをバックアップし、時間と記憶領域を節減することができます。増分バックアップの事例を以下に2つご紹介します。

#### サンプル1：

1月1日12:00 にすべてのデータをサーバから「Data\_0101.bkp」ファイルにバックアップしてあります。1月5日11:00 (12:00 前) に別途バックアップするためには、過去4日間の変更内容を「Data0101\_0105.bkp」というファイルにバックアップします。

#### サンプル2：

1月1日12:00 にすべてのデータをサーバから「Data\_0101.bkp」ファイルにバックアップしてあります。1月5日17:00 (12:00 後) に別途バックアップするためには、過去5日間の変更内容を「Data0101\_0105.bkp」というファイルにバックアップすれば、すべての変更内容のバックアップが完了します。

5. 「適用」をクリックします。バックアップが始まります。バックアップが完了したら、「レポート」をクリックするとバックアップレポートが表示されます。

#### 注意

FAT/FAT32 は4GB を超えるファイルをサポートしていません。

FAT/FAT32 のWindows 98 クライアントでLogitecNAS Backup を実行したり、FAT/FAT32 のWindows 98 を稼働する別のデバイスにファイルをバックアップしたりする場合は、バックアップファイルが自動的に複数の4GBサイズのファイルに分割され各ファイルの拡張子が".bkp"、".001"、".002"、順等になります。これらのファイルは同じディレクトリに保存してください。その後にはNAS サーバにデータを復元するときは、".bkp" ファイルを指定すればその他の関連ファイルも自動的に復元されます。ファイルを1 つずつ手動で復元する必要はありません。

## サーバにデータを復元する

1. LogitecNAS Backup を起動し、「復元」ボタンをクリックしてバックアップウィンドウを開きます。
2. 「システム管理者パスワード」を入力します。
3. 参照機能で正しいパスを指定します。変更されたデータのみそれまでにバックアップしてあって場合は、必要に応じて「.bkp」ファイルを日時順に復元します。前例からわかるように、「Data0101.bkp」と「Data\_0101\_0105.bkp」と復元するだけでバックアップできます。こうして、1月5日に遡ってデータをすべて復元することができます。

4. 復元したデータがサーバに保存されている既存のデータと衝突する場合は、サーバに保存されている既存データを上書きするか、またはスキップしてください。  
LogitecNAS が「上書き」の「共有フォルダ」をリファレンスとして使用します。共有フォルダの名前が同じであれば、そのフォルダ内のすべてのデータを上書きします。一方、「スキップして続行」では、「ファイル」をリファレンスとして使用します。NAS サーバと復元先のファイル「.bkp」とで共有フォルダの名前が同じであれば、そのフォルダをスキップせず、両方のフォルダのデータを結合します。唯一の例外を次に示します。そのフォルダがどれかのユーザーの home フォルダであり、NAS サーバの home フォルダと「.bkp」ファイルの home フォルダがどちらも同じユーザーに属していない場合は、その home フォルダ全体をスキップします。これは、セキュリティを目的として行う処理です。結合は行いません。
5. 「適用」をクリックします。バックアップが始まります。「レポート」をクリックすると、バックアップ処理完了後のバックアップデータを表示することができます。

 注意

1. NAS サーバのデータをローカルマシンにバックアップしたあと、NAS サーバのハードディスク環境設定を変更しますと、データが正しく復元されない場合があります。例えば、データバックアップ時にハードディスクが Non-RAID に設定されていて、データ復元時は環境設定が RAID 0 に変更されているような場合、データが正しく復元できないことがあります。ハードディスクの環境を変更する場合はご注意下さい。
2. データを NAS サーバに復元するときは、NAS サーバに十分な記憶領域があることをご確認ください。記憶領域が足りないと復元が失敗します。
3. データのバックアップ/復元では多数の一時ファイルが1 番目の「volume」フォルダ内に生成されます。したがって、1 番目の「volume」フォルダの空き記憶領域が 10MB に満たないとバックアップ / 復元を実行できません。
4. LogitecNAS Backup でバックアップできるデータはユーザーカウント・グループ情報、データのみです。以下のデータは保存されませんので、バックアップが必要な場合は控えてください。

項目		解説
サーバの環境設定	基本設定	IPアドレス、サブネットマスクなど
	日付設定	
	言語設定	
	通知設定	通知メールのSMTPサーバ、メールアドレスなど
セキュリティー設定	セキュリティーオプション	
ネットワーク設定	Windowsドメイン	
	Unix NIS	
	Apple Networking	
	Novell Networking	
ツールキット	SNMP環境設定	
	UPS管理	

NAS サーバへのデータバックアップ / 復元が失敗すると、電子メールが到着します。エラーコードによってデータバックアップ / 復元の失敗がわかります。ストレージマネージャの「システムログ」タブでログファイルに記録されているエラーコードを検索することもできます。電子メールで通知されるエラーコードの説明を以下に記します。

エラーコード 1: システムエラーが起きました。

エラーコード 2: 指定された Windows ドメインに統合できません。データ復元中です。

エラーコード 3: データ復元中にすでに NAS サーバが別の Windows ドメインに追加されていました。このエラーが起きると、元の Windows ドメインへの再統合が失敗します。

エラーコード 4: NAS サーバの記憶領域がデータ復元に不十分です。ファイル復元を中止しました。

## パスワードを忘れた場合

パスワードを忘れたら、システム管理者に個人設定を設定し直してもらいます。システム管理者がパスワードを忘れた場合、設定の変更やバックアップなどを行うことは一切できなくなります。

## ハードディスクエラー

Non-RAID のシステムは本来的に安全対策が施されていません。したがって、ハードディスク(プライマリを除く)が損傷すると、そこに保存されているすべてのデータが失われます。サーバをシャットダウンし、ハードディスクを取り外し、新品と交換し、再起動します。ハードディスクがNon-RAID ハードディスクとしてシステムに登録されます。ただし、第1ハードディスクに障害が発生するとブート不能となり、サーバに保存されているすべてのデータが失われます可能性があります。

RAID 0 システムでは、ハードディスクに損傷が起きると完全に使用不能になりすべてのデータが失われます。

RAID 5 の場合は、どれか1 台のハードディスクで障害が起きると、ストレージマネージャの「サーバ情報」 - 「ステータス」ページにレポートされます。また、システム管理者に通知が送られます。破損したハードディスクを取り外し(システムの電源を落とす必要はありません)、新品と交換することだけが必要となります。

新しいハードディスクに自動的にデータが復元されます。その間は、リビルド期間中もクライアントのアクセスが損なわれません。以下にご注意ください。

1. RAID 5 の場合、復旧が可能なのは、1 台のハードディスクが破損した場合だけです。複数のハードディスクが同時に使用不能になった場合はシステム自体も完全に使用不能になり、システムに保存されているすべてのデータが失われます。ブートエラーシステムをブートできなくなる原因は以下の2 つが考えられます。
2. NAS サーバをNIS ドメインに追加してある場合に、NIS サーバが使用可能でなくなるとNAS サーバの起動に長時間かかる場合があります。NAS サーバを再起動 / 電源投入する前にNIS サーバが使用可能であることをご確認ください。
3. ハードディスクエラーはシステムの再起動が失敗して起きる場合もあります。Non-RAID またはRAID 0 システムがブートしない場合は、ハードディスクに保存されているデータが損傷している可能性が考えられます。

RAID 5 では、1 番目のハードディスク が使用不能になると、自動的に2番目のハードディスク からブートするようになります。2 番目のハードディスク からブートしなくなったら、1 番目のハードディスク を取り外し、新品と交換し、再起動します。システムが2 番目のハードディスク からブートし、再度ブートすると1 番目のハードディスク のリビルドが自動的に始まります。以下にご注意ください。

RAID 5 の場合は、復旧が可能なのは、1 台のハードディスク が破損した場合だけです。複数のハードディスク が同時に使用不能になった場合はシステム自体も完全に使用不能になり、システムに保存されているすべてのデータが失われます。

## ハードディスクリビルドエラー

ハードディスクのリビルドが失敗する原因として考えられるものを以下に記します。

1. 破損したハードディスクをリビルドに使用している。
2. リビルドするハードディスクとは別に残りのハードディスクも損傷している。

## LogitecNAS Assistantで失敗したときの新規ネットワークセットアップ

1. 正しいサーバを選択したかを確認する。
2. サーバがLAN に接続しているかを確認する。
3. サーバが電源に接続し、電源が入っているかを確認する。
4. LAN の IP アドレスに空きがあることを確認する。
5. 手動入力したネットワーク設定に間違いがないことを確認する。
6. Microsoft Internet Explorer 4.0 以降をデフォルトのブラウザとして使用していることを確認する。
7. 使用しているクライアントターミナルとセットアップするNASサーバが同じサブネット上に存在していることを確認する。

## Windows NT/2000 ドメインに再ログインできない

1. Logitec というアカウントがPDCにあり、Windowsのドメインにログイン、ログアウトする場合、サーバがログバックできない可能性があります。その場合は、PDCのアカウントを削除し、新たにアカウントを作成し、ドメイン名をストレージマネージャに入力します。
2. NAS サーバが修理からかえり、接続するところであれば、サーバとWindows PDC との間の信頼が失われています。同じサーバ名を使用した場合であっても、元のアカウント(例:Logitec) を削除し、再度作成し、ストレージマネージャのドメインに再度環境設定することが必要になります。

## 高速環境設定の日付 / 時刻ページにボタンが表示されない

アンチウィルスソフトウェアの web tap モジュールによっては、高速環境設定の日付/時刻ページモジュールが表示されない状態になるものがあります。web trap を無効にし、再度試みるか、または異なるターミナルをセットアップに使用してください。

## ストレージマネージャとクライアントターミナルとの接続が失われる

ネットワークトラフィックが重いためにセットアップ実行中にストレージマネージャが応答しなかったり、フリーズする場合は、別の箇所をクリックしてから元の箇所を再度クリックしてみてくださいこれですましくない場合は、ブラウザのウィンドウを閉じ、ストレージマネージャを再度開きます。ネットワーク環境設定を変更したら NAS に接続できないネットワークの環境設定を修正し(サーバアドレス、ドメイン、DNS データ、等を含みます)、ネットワーク設定を再度確認し、必要に応じて変更します。ブラウザを閉じ、ストレージマネージャに再度接続を試みてください。電子メール通知が到着しないサーバから電子メールで通知されない場合は、ストレージマネージャで「サーバ情報」「システムログ」へ移動し、ログに記録されているメッセージを確認します。電子メール通知の未配達に関するエラーメッセージを以下に示します。

1. Cannot resolve the host address (ホストのアドレスを解明できません):  
xxxxxx,errcode:xxx.  
このメッセージは、SMTP サーバの名前としてつけられた名前を DNS サーバが確認できなかったことを表します。以下の原因が考えられます。
  - DNS データエラー
  - DNS サーバの電源障害
  - ドメイン名間違い
  - SMTP サーバ間違い上記のオプションを確認し、再度試みてください。

2. Cannot connect to host (ホストに接続できません):xxxxxx(xxx.xxx.xxx.xxx)  
このメッセージは、SMTP サーバに接続できなかったことを表します。

以下の原因が考えられます。

ネットワーク接続が切れた。ネットワーク接続を確認し、再度試みます。

SNMP サーバが使用不能。サーバが正しく動作しているかを確認します。

SNMP サーバがメッセージを拒絶した。SNMP サーバがジャンクメッセージを区別していないことを確認します。

システム管理者に問い合わせるか、または他の SMTP サーバを使用してみます。

3. Mail server connection failed (メールサーバが接続できませんでした。)このメッセージはSMTP サーバがタイムアウトし、30 秒間以内に応答しなかったことを表します。SNMP サーバが正しく動作しているかを確認します。

4. Send email error (電子メール送信エラー):xxx. このメッセージは不明な電子メールエラーを表します。エラーコードをメモし、保守員に問い合わせます。

5. Cannot create socket resource. (ソケット資源を作成できません)

このメッセージは、電子メールを送信するだけの資源がないことを表します。サーバを再起動して障害を解消してください。

## クライアントがNAS サーバにアクセスできない

Windows/UNIX/Apple クライアントがサーバにアクセスできない場合は、以下を確認してください。

1. ストレージマネージャの「ネットワーク設定」が正しく設定されているかを確認します。
2. NAS サーバをWindows ドメインに加えてある場合は、Windows PDC が正しく動作しており、そのNAS サーバのアカウントが依然としてそのPDC上に存在することを確認してください。NASサーバのアカウントをPDC上に作り直し、サーバをストレージマネージャのWindows ドメインに追加してみます。加えて、NASサーバにアクセスできなかったクライアントがWindows の同じドメインに正しくログオンしているかも確認してください。
3. NAS サーバをUNIX NIS ドメインに加えてある場合は、UNIX NISサーバが正しく機能しているかを確認します。
4. NAS サーバと同じIP またはサーバ名を使用しているホストがネットワーク上に存在しないかを確認します。存在する場合は、極力早期に状態を正します。
5. LogitechNAS では、同時にネットワークにログオンできるクライアントは最大512です。しばらく待ってから再度接続を試みる必要がある場合があります。
6. デフォルトユーザーのhome フォルダはすべてNAS サーバの1 番目の「volume」に保存されます。Non-RAIDハードディスク構成でハードディスクが一杯になると、ユーザーがhome フォルダにアクセスすることはできなくなります。その場合は、できるだけ速やかにNAS サーバを増設して容量を大きくする必要があります。
7. Windows 2000 クライアントが不意にアクセス権限ファイルにアクセスできなくなった場合は、NAS サーバにログインする際にアカウントサーバからログアウトし、再度ログインします。
8. 上記の設定がすべて正しい場合は、NAS サーバを再起度してください。

## ローカルユーザーがストレージマネージャにアクセスできない

ローカルマシンに設定したユーザーのアカウントがストレージマネージャに接続できない原因として以下のものが考えられます。

1. 元々ユーザーのアカウントが Windows PDC アカウントだった。  
ローカルアカウントに追加するときにパスワードを設定しなかった。
2. ストレージマネージャで使用している言語とクライアントが使用している言語とが異なる場合は、ストレージマネージャ使用時にクライアントがランダムコードを読み込んでいる可能性があります。  
ストレージマネージャに設定されている言語をリセットして、クライアントから読めるようにする必要があります。

## NAS サーバに保存されているデータをバックアップ / 復元できない

NAS サーバへのデータバックアップ / 復元が失敗すると、電子メールが到着します。エラーコードによってデータバックアップ / 復元の失敗がわかります。ストレージマネージャの「システムログ」タブでログファイルに記録されているエラーコードを検索することもできます。電子メールで通知されるエラーコードの説明を以下に記します。

### エラーコード 1

システムエラーが起きました。  
サーバの再起動を試みます。再起動できない場合はテクニカルサポートに問い合わせください。

### エラーコード 2

データ復元中は Windows ドメインに統合できません。  
バックアップ中に NAS サーバを Windows ドメインに統合すると、Windows のドメイン情報も同時にバックアップされます。  
Windows のドメイン情報は、NAS サーバへのデータ復元と同時に後で同時に復元できます。  
復元中に Windows のドメインが存在しない場合は、ドメインが断路しているか、または PDC がダウンし始めているおそれがあります。その場合は Windows のドメイン情報を正しく復元できません。

### エラーコード 3

データ復元時にすでに NAS サーバが別の Windows ドメインに統合されています。そのため、元の Windows ドメインに再統合する際にエラーが起きることになります。バックアップ中に NAS サーバを Windows ドメインに統合すると、Windows のドメイン情報も同時にバックアップされます。Windows のドメイン情報は、NAS サーバへのデータ復元と同時に後で同時に復元できます。データ復元時に NAS サーバがすでに別の Windows ドメインに統合されていた場合は、元の Windows ドメインに再統合することができません。

### エラーコード 4

NAS サーバの記憶領域がデータ復元に不十分です。ファルの復元を中止しました。

## 付録 1 RAID とは

RAID は "Redundant Array of Independent Drives" の略語です。RAID は、少容量低コストの多数のディスク装置を結合して "ディスクアレイ" を構成し、同等容量の1台の大型ディスク装置に勝る性能を可能にすると共に、個別のディスク装置のメリットを活かしてシステムを効率化する技術です。RAID では、読み書きを個々のディスク装置に分散することによりデータアクセスを高速化します。これにより、大型のディスク装置1台の場合と比べて、アクセス要求待機時のボトルネックを解消します。言い換えれば、ディスクアレイにデータを書き込む際に多数のブロックに分割し、複数のディスク装置に記憶します。同様に、データを読み取る際には、複数のディスク装置から同時に読み出すことにより、ディスクアレイのアクセス速度を高速化します。これに加えて、RAID によっては記憶領域の一部をデータのミラーリングに利用する仕様のものがあります。つまり冗長なデータを記憶します。これにより、ディスクアレイにしたディスク装置の1台が故障してもシステムの整合性が損なわれることはありません。

LogitecNAS には RAID 0、RAID 5、およびホットスベアを搭載した RAID 5 の3種類の RAID が用意されています。これら3種類の RAID について以下に概要をまとめます。

RAID レベル	特徴
RAID 0	ストライピング: 複数のディスク装置を使用して1第の大型仮想ディスク装置の働きをします。安全対策は備えていません。
RAID 5	RAID 5 ではバックアップオプションが用意されています。複数ディスクを1台の仮想ディスクとして取り扱い、アクセス速度を高速化します。パリティモードにより1台のディスク装置のサイズに匹敵する記憶領域に冗長なデータを記憶します。4台のディスクで実際にデータ記憶に使用できる記憶領域は、3台分となります。
ホットスベア搭載 RAID 5	ホットスベア搭載 RAID 5 は、RAID 5 のディスクアレイに1台のスベアディスクを追加し、1台目を冗長記憶に使用し、2台目をスベアに使用します。4台のディスク装置のシステムで実際にデータ記憶に使用できる記憶領域は、2台分となります。

## RAID 0 (ストライピング)

(RAID 0 アレイでは、データを分割し、別々の場所に記憶します。ただし、フォールトトレラントではありません。RAID 0 では、ディスクアレイは1台の大型ディスク装置として取り扱われます。そのサイズは、個々のディスク装置をすべて結合したサイズとほぼ同じです。複数ディスク装置への並列アクセスにより、読み書きの高速化が可能となり、個別にディスク装置を使用する場合よりアレイが高速化されます。そのため、RAID 0 は大量のストリーミングデータを効率的に転送し、なおかつ高品質が必要とされる用途に最適です。

RAID 0 ではミラーリングや冗長オプションを使用できません。ディスクアレイのうち1台のディスク装置に障害が起きると、ディスクアレイ全体が使用不能になります。

RAID 0 はフォールトトレラントではありません。

## RAID 5

RAID 5 は、RAID 0 と同じです。すなわち、複数のディスク装置を使用して1台の大型仮想ディスクの働きをさせます。ただし、パリティデータ(Parity) 形式によって冗長なデータを記憶します。データの書き込み中にデータをスキャンし、冗長な(redundancy) データをディスクアレイ内の別のディスク装置に記憶します。そのパリティ情報を分割して別々のディスクに記憶します。記憶は実際のデータと一緒に行います。ディスクアレイ内の1台のディスク装置が使用不能になっても、データ保護用のディスクに保存されているパリティデータを使用して情報全体を復元することができます。

言い換えれば、RAID 5 アレイでは、1台のディスクを冗長データに使用することにより、 $n-1$  台のディスクを実際のデータ記憶に使用できるようにします。

## ホットスペア搭載 RAID 5

ホットスペア搭載 RAID 5 は、RAID 5 にさらに1台のスペアディスクを装備した構成です。アレイ内のディスク装置がどれか1台使用不能になると、スペアディスクが自動的にオンラインになり、損傷したデータをリビルドします。

言い換えれば、2台のディスク装置を安全のために使用するため、 $n$  台のディスクアレイの記憶領域は $n-2$  台分となります。

### ! ヒント

RAID はシステムの安全性のレベルを大幅に引き上げますが、定期的にデータをバックアップすることは習慣にしておいてください。不意にデータを失うと、RAID アレイでも復元できない場合があります。RAID は1台のディスクで起きる使用不能を補償する手段にすぎません。2台のディスクが同時に使用不能になると、データ損失が避けられません。

## 付録2 Windows から NAS サーバへのアクセス

NAS サーバをインストールすると(デフォルトのサーバ名を Logitec とします)、Logitec というサーバが Windows の Network Neighborhood に現れます。users グループのメンバーとして Logitec にアクセスできるユーザーは(上記の「セキュリティ設定」を参照)、自分の実際のアカウントにちなんだ名前が付いたフォルダにアクセスできるほか、それ以外で Logitec 上でアクセスできるフォルダにアクセスすることができます。

Windows クライアントから Logitec サーバの記憶領域にアクセスしたいときは Network Neighborhood からドライブにアクセスします。または、クライアントのファイルマネージャに表示される Logitec のドライブへ永続的リンクを作成(ネットワークドライブをマッピング)します。NAS サーバにアクセスできる Windows NT 4.0/2000 ユーザーが NAS サーバにアクセスすると、アカウントとパスワードを求められます。Windows 98 クライアントがサーバにアクセスを試みると、Windows オペレーティングシステムがクライアントのログイン名を読み取り、正しいパスワードのみ入力するように求めます。NAS サーバに保存されているアカウント情報がクライアントのログイン名と一致しない場合は、アクセスを拒絶します。したがって、クライアントターミナルが Windows 98 を稼働している場合は、そのサーバとクライアントに同じアカウント名を使用する必要があります。

NFS プロトコルの目的の1 つに、リモートのファイルシステム(remote filesystem) とローカルのファイルシステムとにほぼ同じ管理方法を用いることができるようにすることがあります。したがって、その両方で mount コマンドによってマウントすることができます。使い方を以下に示します。

```
mount /dev/dsk/c0t0d0s5 /home (ローカルファイルシステム、Solaris)
mount /dev/hda5 /home (ローカルファイルシステム管理者、Linux)
```

Unix では、上記のスク립トを/etc/vfstab (Solaris) または/etc/fstab に設定するのが一般的です(Linux、FreeBSD)。これらの設定はシステムを起動すると自動的に実行されます。/etc/vfstab (dogfood はNAS/NFS サーバの名前) の内容を表示する設定例を以下に示します。

# Filesystem	Mountpoint	Type
/dev/dsk/c0t0d0s0	/	ufs
/proc	/proc	proc
dogfood:/share1/programs	/usr/local	nfs
dogfood:/share1/homes	/home	nfs

ネットワーク上に多数のUnix クライアントが存在する場合は、NFS ファイルシステムをクライアントの/etc/vfstab or /etc/fstab ファイルに書き込むと作業が複雑になります。NFS ファイルシステムのパスを変更したり、新しいNFS ファイルシステムを追加するときは、Unix クライアント(Unix client) ごとに1 つずつ設定を変更していく必要があります。

NIS (Network Information Service) を使用することは、ディスク管理の1つの方法であると言えますが、それはNIS サーバがすべてのマウント(mount) 情報をNIS サーバに保存するからです。NFS クライアントをNIS ドメインに加えると、そうしたNFS クライアントがNFS サーバの共有ディレクトリを使用できるようになります。使用に際しては、/etc/vfstab または/etc/fstab をそれぞれ修正する必要はなく、"automount" 機能を使用することができます。ほとんどのUnix システム (Solaris、Linux、FreeBSD、等) をNIS サーバとして環境設定することができます。以下に、Solaris NIS サーバを設定する方法をもとに説明を記します。Master map は、NIS サーバに保存されているマウント情報のデータベースです。データベースを構築する前に、/etc/auto\_master というテキストファイルを以下のようにして編集する必要があります。

Master	map:	/etc/auto_master
#Directory	Map	Mount options
/net	-hosts	-rw
/home	auto_home	-nosuid
/-	auto_direct	

ファイル内の 1 番目の列は自動マウント(automount) に使用するパスです。クライアント(clients) 側のユーザーがそのディレクトリにアクセスを試みると自動的にリンクが有効になります。2 番目の列では、データベースのパスがパラメータになっています。1 番目の列に記述されたディレクトリに関するマウント情報を記録します。"-hosts" は除外します。上記の設定例では、特殊行の"/-auto\_direct." "/-" はディレクトリではありません。マウントするディレクトリは"auto\_direct." というデータベースに保存されています。マウント情報の形式を以下に示します。

```
/etc/auto_direct
#Mount point      Mount options      File system
/usr/local         -ro,nosuid         dogfood:/share1/programs
/public           -rw                datakey:/share1/public1
```

1 番目の列はマウントポイント(mount point) を表し、2 番目の列はマウントパラメータです。3 番目の列は、使用している NFS ファイルシステムを表します。たとえば、Unix clients のユーザーが /usr/local のファイルにアクセスしようとする、auto\_direct を元に /usr/local が自動的に dogfood:/share1/programs にリンクします。他のデータベースである"auto\_home" には異なるユーザー名によって異なるリンクを持たせることができます。リンク情報の形式を以下に示します。

```
#User name        File system
sysadmin          dogfood:/share1/homes/sysadmin
justind           dogfood:/share1/homes/justind
anneli            datakey:/share1/users/anneli
jiem              datakey:/share1/users/&
```

NIS サーバの /etc/passwd (ユーザーカウントを保存してあるファイル) の内容を以下に示します。

```
sysadmin:x:1000:500:System Administrator:/home/sysadmin:/bin/tcsh
justind:x:1001:500:Justin Deng:/home/justind:/bin/tcsh
anneli:x:1002:500:Anne Li:/home/anneli:/bin/tcsh
jiem:x:1003:500:Jiem Deng:/home/jiem:/bin/csh
```

sysadmin というユーザーが Unix clients にログインし、/etc/passwd によって /home/sysadmin というデフォルトのホームディレクトリへ移動します。auto\_home データベースにより、/home/sysadmin が自動的に dogfood:/share1/homes/sysadmin へマウントされます。auto\_home により、ユーザーへのハードディスク空き容量の割当を留意に行えます。NAS サーバ dogfood が空き容量不足になっても、新たに追加したユーザーか、または一部の元のユーザー(anneli、jiem など) を NAS サーバの datakey へ移動することができます。

LogitecNAS は、AppleTalk と TCP/IP の 2 つのアクセスプロトコルをサポートしています。このうち設定したい方のプロトコルをストレージマネージャに設定します。「ネットワーク設定」 - 「Apple ネットワーク」と移動します。

Logitec という NAS サーバで LogitecNAS を実行しているとします。

AppleTalk から Apple クライアントにアクセスしたいときは、AppleShare を選択し、「ファイルサーバを選択」オプションでサーバの名前 Logitec を選択します。ログインするには、クライアントのアカウントのアカウント名とパスワードを入力するか、または guests としてログインします。アクセス権限が存在するすべてのデータが表示されます。users グループの一部であるユーザーがホームフォルダに表示されます。アクセスしたいデータを以下のようにして選択します。デスクトップにアイコンが現れると、接続が確立しています。

Apple クライアントが TCP/IP をサポートしている場合は、TCP/IP をアクセスプロトコルとして選びます。「サーバの IP アドレス」に Logitec サーバの IP アドレスを入力し、ログイン名とパスワードでログインします。または、guest としてログインすることもできます。

LAN に「ゾーン」が存在する場合は、自動的にサーバがクライアントのゾーンにログインします。

#### 注意

1. Apple クライアントが root アカウントで NAS サーバにアクセスすることはできません。システム管理者 root で Apple クライアントからサーバにアクセスするためには、そのサーバに別のadmins グループアカウントを作成してください。
2. Apple クライアントが 4GB を超えるファイルを NAS サーバに保存することはできません。

## 付録4 Apple から NAS サーバへのアクセス

LogitecNAS は、AppleTalk と TCP/IP の 2 つのアクセスプロトコルをサポートしています。このうち設定したい方のプロトコルをストレージマネージャに設定します。「ネットワーク設定」 「Apple ネットワーク」と移動します。

Logitec という NAS サーバで LogitecNAS を実行しているとします。

AppleTalk から Apple クライアントにアクセスしたいときは、AppleShare を選択し、「ファイルサーバを選択」オプションでサーバの名前 Logitec を選択します。ログインするには、クライアントのアカウントのアカウント名とパスワードを入力するか、または guests としてログインします。アクセス権限が存在するすべてのデータが表示されます。users グループ(第4章参照)の一部であるユーザーがホームフォルダに表示されます。アクセスしたいデータを以下のようにして選択します。デスクトップにアイコンが現れると、接続が確立しています。Apple クライアントが TCP/IP をサポートしている場合は、TCP/IP をアクセスプロトコルとして選びます。「サーバの IP アドレス」に Logitec サーバの IP アドレスを入力し、ログイン名とパスワードでログインします。または、guest としてログインすることもできます。

LAN に「ゾーン」が存在する場合は、自動的にサーバがクライアントのゾーンにログインします。

### 注意

1. Apple クライアントが root アカウントで NAS サーバにアクセスすることはできません。システム管理者 root で Apple クライアントからサーバにアクセスするためには、そのサーバに別の admins グループアカウントを作成してください。
2. Apple クライアントが 4GB を超えるファイルを NAS サーバに保存することはできません。

## 付録 5 電子メール通知一覧表

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	%H からお送りするテストメッセージ	お知らせ %H からお送りするテストメッセージです。 ご使用のブラウザで <a href="http://%I/">http://%I/</a> へ接続し、他の環境設定をお続けください。 アカウント名は以下をご利用ください。 'root'
システム管理者	サーバ %H の温度が上昇しています	お知らせ サーバ%H の温度が上昇しています。 CPU ファンが正常に作動していないおそれがあります。ただちにサーバを調べ、必要に応じて電源を落としてください。
システム管理者	サーバ %H が過熱しています	お知らせ サーバ%H が極度に高熱です。 CPU ファンが正常に作動していないおそれがあります。ただちにサーバを調べ、必要に応じて電源を落としてください。
システム管理者	%H の温度が臨界に達しました	お知らせ サーバ%H の温度が臨界点に達したため、自動的にシャットダウンします。 標準温度に復帰したら、サーバを再起動し、原因を調べてください。
システム管理者	サーバ %H の温度が標準温度に復帰しました	お知らせ サーバ%H の温度が標準に復帰しました。以下のサイトの[ツールキット/LED 管理]でLEDをリセットしてください。 <a href="http://%I/">http://%I/</a>
システム管理者	%H でメモリエラーが起きました。	お知らせ %H でメモリエラーが起きました。 メモリチップに不具合があるおそれがあります。ただちに修理してください。
システム管理者	%H : システムファンが故障しました	お知らせ %H のシステムファンが故障しました。 できる限り速やかにシステムファンを交換してください
システム管理者	IP リセットが完了しました	お知らせ %H のIP アドレスリセットが成功しました。 %H のIP アドレスを設定できます。

システム管理者	%H のディスク%D が削除されました。	お知らせ %H のディスク%D が削除されました。 ディスクを確認し、新しいディスクと交換してください。以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。http://%I/
システム管理者	%H のディスク%D を初期化しています	お知らせ %H のディスク%D を初期化しています。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。 Http://%I/
システム管理者	%H のディスク%D をリビルドしています	お知らせ %H のディスク%D をリビルドしています。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。http://%I/
システム管理者	%H のディスク%D をリビルドしました	お知らせ %H のディスク%D をリビルドしました。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。http://%I/
システム管理者	%H のディスク%D をリビルドできませんでした	お知らせ %H のディスク%D をリビルドできませんでした。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。http://%I/
システム管理者	%H のディスク%D に損傷が起きました。スペアディスクをオンラインにしました	お知らせ %H のディスク%D に損傷が起きました。 スペアディスクをオンラインにしました。リビルド中です。 トラブル原因を見つけ、損傷したディスクを交換してください。
システム管理者	%H のディスク%D に不具合があります。	お知らせ %H のディスク%D に不具合があります。 トラブルの原因を調べ、ディスクを交換してください。
システム管理者	新たに増設されたハードディスクの容量が少なすぎます。	新たに増設されたハードディスクの容量が、現在システムに使用されているハードディスクの容量より少ないです。Raid0、Raid1、Raid5、Raid5+spare のディスク構成で利用することができません。大容量のハードディスクと交換してください。

システム管理者	%H の%D でI / Oエラーが発生しました。	お知らせ %H の%D で I / O エラーが発生しました。ハードディスク交換のタイミングを選んでください。
システム管理者	%H のVolume %Vの空き容量が限界に達します	お知らせ %H のVolume %V の空き容量が限界に達します。 不要なファイルを削除するか、または空き容量を増やしてください。 Volume 1 に少なくとも10MB の空き容量がないとシステムの動作に支障がでます。 Volume %V の総空き容量：%G ギガバイト残り容量：%R ギガバイト(%U%)
システム管理者	%N へのメールが未配達です	お知らせ ユーザ%N へのメールが未配達です。 ユーザ%N の電子メールアドレスを確認してください。
システム管理者	%H がシステムを更新しています。アクセスを一時拒絶します。	お知らせ %H が現在システムファイルを更新中です。 10分ほどで完了します。 更新中は、サーバへのアクセスを一時停止します。 よろしくお願いいたします。
システム管理者	%H の更新完了	お知らせ %T の%t で%H がシステム更新に成功しました。 サーバが正常動作を回復しました。 最新バージョンのオペレーティングシステムは%B %Vです。 よろしくお願いいたします。
システム管理者	%H の更新失敗 お知らせ	お知らせ %H 更新の試みが失敗しました。以下のどれか1つが原因として考えられます。 1. 無効な更新ファイルが指定されたか、またはファイルが破損している。 2. 現在の更新ファイルより古いファイルが指定された。 3. 複数のディスクが更新に失敗した。確認し、再度試みてください。
システム管理者	%H のハードディスク設定変更が成功しましたアクセスを一時停止します。	お知らせ %H のハードディスク設定は現在以下のとおりです。 %L更新中は、アクセスを一時停止しました。

システム管理者	%H のハードディスク設定変更が成功しました	お知らせ %H のハードディスク設定変更が成功しました。すべてのハードディスクに保存されていたすべてのデータが消去されました。サーバが現在使用している環境設定を以下に示します。 %L
システム管理者	%H のローカル/リモートUPS 設定が完了していません	お知らせ [UPS 管理] ページの設定が完了していません。設定が完了しないとUPS モニタデーモンが動作しません。
システム管理者	%H がローカルUPS を検出できません	お知らせ UPS モニタデーモンがローカルUPS を検出できません。以下の原因が考えられます。 1. シリアルケーブルのゆるみ。 2. シリアルケーブルの種類が間違っている。 3. UPS モニタデーモンがご使用のUPS タイプを認識できない。 UPS のモニタデーモンを動作させるには、障害を解消し、[UPS 管理] ページで再起動します。
システム管理者	%H がローカル/リモートUPS 電源の異常状態を検出しました	お知らせ UPS モニタデーモンがローカル/リモートUPS 電源の異常状態を検出しました。ローカルUPS の交流電源が消失し、バッテリー電源で動作している可能性があります。UPS のモニタデーモンを動作させるには、障害を解消し、[UPS 管理] ページで再起動します。
システム管理者	%H がローカルUPS の異常状態を検出しました	お知らせ UPS モニタデーモンがローカルUPS の不明な異常状態を検出しました。障害を解消し、[UPS 管理] ページでUPS モニタデーモンを再起動してください。
システム管理者	%H がリモートUPS を検出できません	お知らせ UPS モニタデーモンがリモートUPS を検出できません。以下の原因が考えられます。 1. リモートUPS のIP アドレスに間違いがある。 2. リモートUPS へのアクセス権限が許可されていないcommunity が設定された。 3. リモートUPS のエンタープライズOID に間違いがある。 4. リモートUPS がSNMP に対応していない。 UPS のモニタデーモンを動作させるには、障害を解消し、[UPS 管理] ページで再起動します。

システム管理者	%H がリモートUPS 電源の異常状態を検出しました	お知らせ UPS モニタデーモンがリモートUPS 電源の異常状態を検出しました。 リモートUPS の交流電源が消失し、バッテリー電源で動作している可能性があります。 UPS のモニタデーモンを動作させるには、障害を解消し、[UPS 管理] ページで再起動します。
システム管理者	%H のリモートUPS の設定に間違いがあります	お知らせ [UPS 管理] ページで設定された[ステータスOID] をリモートUPS が認識できません。 以下の原因が考えられます。 1. [ステータスOID] 設定に間違いがある。 2. リモートUPS がSNMP に対応していない。 UPS のモニタデーモンを動作させるには、障害を解消し、[UPS 管理] ページで再起動します。
システム管理者	%H に電源障害があり、UPS で稼働しています。シャットダウンします。	お知らせ 交流電源障害またはローカル/リモートUPS のバッテリー放電のため、このメール送付直後にサーバ%H がシャットダウンしました。
システム管理者	%H に電源障害があり、UPS で稼働しています。シャットダウンします。	お知らせ 交流電源障害により、一時的にUPS から電源を供給しています。 [ツールキット/UPS 管理] の指定時間内に交流電源が復旧しない場合は、サーバ%H をシャットダウンします。
システム管理者	サーバ%H の交流電源が復旧しました。	お知らせ サーバ%H の交流電源が復旧しました。シャットダウン手順がキャンセルされました。
システム管理者	サーバ%H：ローカルUPS のバッテリー消耗	お知らせ ローカルUPS のバッテリーがなくなります。ただちにサーバ%H をシャットダウンします。
システム管理者	サーバ%H のローカル/リモートUPS が過負荷です	お知らせ サーバ%H のローカル/リモートUPS が過負荷ですこの状態が解消しない場合は、[ツールキット/UPS 管理]で指定した時間が経過した時点でサーバ%H をシャットダウンします。

システム管理者	新たに増設されたハードディスクの容量が少なすぎます	お知らせ 新たに増設されたハードディスクの容量が、現在システムに使用されているハードディスクの容量より少ないです。Raid0、Raid1、Raid5、Raid5+spare のディスク構成で利用することができません。大容量のハードディスクと交換してください。(注意: 本製品ではRAID1 は未サポートです。)
システム管理者	%H サーバのバックアップが成功しました	お知らせ バックアップ処理が成功しました。
システム管理者	%H サーバの復元が成功しました	お知らせ 復元処理が成功しました。
システム管理者	%H サーババックアップエラー、エラーコード%E	お知らせ バックアップ中にエラーが起きました。ただちにバックアップファイルを削除してください。エラーコードは%E です。
システム管理者	%H サーバ復元エラー、エラーコード%E	お知らせ 復元処理が失敗しました。エラーコードをご確認ください。エラーコードは%E です。

一般ユーザ	サーバ%H からようこそ%N 様	%N 様 ようこそ%H へ！ Network Neighborhood で¥¥%H にアクセスするか、またはご使用のブラウザで <a href="http://%I/">http://%I/</a> へ移動して個人プロファイルを修正してください。 ご使用のアカウント'%N' 氏名：'%F' パスワード：'%P' ディスク割当：%Q
一般ユーザ	%H の%n のプロファイルが修正されました	%n 様 %H の個人プロファイルを以下のごとくに修正いたしました。 ご使用のアカウント'%N' 氏名：'%F' パスワード：'%P' ディスク割当：%Q
一般ユーザ	%h をリネームし	%N 様 元%h と称していたサーバを%H にリネームしました。 Network Neighborhood で¥¥%H にアクセスしてください。 パーソナルプロファイルを変更したいときは、ご使用のブラウザで <a href="http://%I/">http://%I/</a> へ移動します。
一般ユーザ	%H のIP アドレスを変更しました	%N 様 %H のIP アドレスを以下のごとくに変更しました。 %Iパーソナルプロファイルを変更したいときは、ご使用のブラウザで <a href="http://%I/">http://%I/</a> へ移動します。

## 付録6 システムのデフォルト環境設定

サーバのプロパティ		
サーバ名	LogitecNAS	
サーバ日付/時刻	日本標準時間	
サーバ障害通知	サーバテスト電子メール送信	
使用言語	日本語	
コードページ	Japanese SJIS(Code Page 932)	
システム管理者パスワード	なし	
ネットワーク設定		
TCP/IP	DHCPサーバからTCP/IP設定を取得	オン
Microsoft Networking	有効にする	オン
	ワークグループを有効にする	ワークグループ
Apple Networking	TCP/IP接続を有効にする	オン
	AppleTalk接続を有効にする	オン
UNIX NFS	NFSネットワークを有効にする	オン
Novell Networking	Novell Networking を有効にする	オフ
	イーサネットフレームタイプ	802.2
	内部ネットワーク番号外部	オート
	ネットワーク番号	デフォルト
Advanced Novell	Novellサーバ名	_NWをサーバ名に付加

セキュリティ設定		
user	root	定義済み管理ユーザ;ADMINS グループのメンバー;パスワード指定なし。rootのデフォルトディスクア割当は無制限。
	guest	パスワード指定なし。認証失敗したすべてのユーザにデフォルトIDを規定。(この機能を無効にするには、パスワードを指定。)guestのデフォルトディスク割当は無制限。
新たに作成したアカウントのデフォルト	デフォルトグループ	users
	デフォルトディスク割当	100 MB
最大アカウント		512
最大同時接続	Windows クライアント(CIFS/SMB): 512	
ユーザグループ	admins	特殊アクセス権限を持つ定義済みグループ;サーバを環境設定できるのはADMINS メンバーのみ。Rootはこのグループのデフォルトのメンバーです。
	users	このグループのメンバーには、自分のアカウントにちなんだ名付けられたフォルダおよびその他、アクセス権限を有するフォルダが表示されます。Rootはこのグループのデフォルトのメンバーです。
	guests	users グループのメンバーとは異なり、guests にはWindows NetworkNeighborhood のフォルダは表示されません。NASサーバに保存されているパブリックフォルダにアクセスすることができます。guest というアカウントはこのグループのデフォルトのメンバーです。
最大グループ		128
SharedFolders	pubilcn	この共有フォルダは /sharen/publicn フォルダに存在。LAN 上のすべてのユーザはこの共有フォルダを使用できます。フル書き込み読取りアクセス権限を持ちます。
新たに作成したフォルダの	NFS エクスポート設定	読取り書き込み
	everyone に権限	読取り書き込み
最大共有フォルダ	64(ユーザのhome folder を含めず)	
外部ユーザ認証	Microsoft Network ユーザドメインコントロール認証を有効にする	オフ
	UNIX NIS ネットワークを有効にする	オフ

ディスクドライブ設定		
4ドライブ構成	Non-RAID RAID 0 RAID 5 ホットスベア搭載RAID 5	オフ オフ オン オフ
命令規約		
サーバ名	大文字小文字の区別	
アカウント名	大文字小文字の区別 15文字 英字、数字、下線、マイナス記号を使用先頭はマイナス記号にできません	
パスワード	大文字小文字の区別 表示したとき0~12文字	
共有フォルダ名	大文字小文字の区別 15文字 英字、数字、下線、マイナス記号を使用先頭はマイナス記号にできません	
グループ名	大文字小文字の区別 15文字 英字、数字、下線、マイナス記号を使用先頭はマイナス記号にできません	
ツールキット		
SNMP 設定	SNMP アクセスを有効にする システムの保存場所	オン 不明(Unknown)
管理UPS	UPS設備なし 検出間隔シャットダウン前 遅延	オン 20 秒間 3 分間

ソフトウェアマニュアル LAS-1URA シリーズ

---

第1版 2001年12月

 **ロジテック株式会社**  
<http://www.logitec.co.jp/>

本社：〒111-0043 東京都台東区駒形1-12-14 日本生命浅草ビル

---